

2020年5月実施

「大学教育後援会」活動調査アンケート集計報告

2020年11月

科学研究費助成事業 「19K02855」基盤研究（C）

「大学教育後援会の事業と成果を指標として実施する大学評価の可能性をめぐる実証的研究」

岩手大学 大川 一 毅

鳥取大学 大野 賢 一

茨城大学 畷 田 敏 行

目次

はじめに.....	1
調査方法と回答状況	2
I 貴会について	3
II 貴会の事業について	9
III 貴会（大学教育後援会等）の役割.....	23
IV 貴会参加の背景.....	25
V 大学に関する理解と今後の課題について	27
VI 【緊急追加設問】 新型コロナ・ウイルス感染症拡大に関する対応について.....	31
自由記述	32
○回答にご協力いただいた教育後援会・保護者会さま （回答到着順）	35

はじめに

このたびは、「大学教育後援会」活動調査アンケートにご協力いただき、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの世界的蔓延という中での依頼となり、誠に心苦しい限りでしたが、おかげさまをもちまして、全国の国・公・私立大学・学園の 130 後援会組織様からご回答をいただきました。集計報告がまとまりましたので、ご報告いたします。

大学を取り巻く厳しい環境にあつて、学生さん達のより良い教学環境づくりを支援する保護者組織が増えております(以後「教育後援会」と称します)。しかし、大学における教育後援会の設置状況や活動の実態を把握できる調査報告や報告はこれまでにありませんでした。また、教育後援会の取り組みや成果について大学教員や学生に認識される機会は少なく、そのため大学運営や学生の成長に教育後援会が果たしている役割に関して正當に評価されていないことも多々ありました。

こうした状況を懸念し、教育後援会やその事業の現況把握、並びに後援会の意義や可能性を見出すべく、日本学術振興会の「科学研究費助成事業」として、今回の「大学教育後援会」活動調査アンケートを企画いたしました。

いただきました回答からは、それぞれ教育後援会さまの多様な取り組みを確認できました。同時に、様々なご苦労も把握しました。学生にとってはもちろん、大学にとっても教育後援会は心強いサポーターであり、また、大学と保護者とをつなぐ「架け橋」として、かけがえのない存在です。「大学と保護者との協力」は今後いっそう必要度が高まります。大学の発展や学生のよりよい学びに向けて、両者が寄り添い、ともに考えていくことが重要となりましょう。この調査集計報告を必要に応じてご活用いただき、各大学・学園や教育後援会事業の充実発展、及び今後の展望を開く一助となれば幸甚です。

今回の調査結果につきましては、貴重なデータとしてさらなる分析を進め、関連学会での報告をはじめとし、広く社会に伝えていきたいと考えております。

本調査に関し、今後の分析視点や事例研究調査などのご要望、ご意見等ございましたら、ご教示よろしくお願ひいたします。また、本調査結果のお問い合わせやこれまでの研究成果の報告など、私どもでお役に立つことがございましたら、お気兼ねなくご連絡願ひます。

2020年11月30日

岩手大学 教授(評価室)

研究代表者 大川 一 毅

「大学教育後援会」活動調査アンケート（2020年5月）

実施： 岩手大学教授 大川 一毅、 鳥取大学教授 大野 賢一、 茨城大学准教授 嶋田 敏行

調査方法と回答状況

① 調査対象と実施時期

本調査は、令和元年度における全国の国立、公立、私立の 784 全大学(大学院大学を含む)にあつて、保護者を主たる構成員として組織する 530 の「大学教育後援会(組織)」もしくは「保護者会」(以後「教育後援会」と略す)に質問紙を送付し、組織の統括ご担当各位(会長、もしくは執行部役員)に回答を依頼している。これにあたっては組織としての見解ではなく、教育後援会のそれぞれの立場からで主観的なご判断での回答を可とした。発送は 2020 年(2020)5 月 15 日付けとし、締め切りを同年 6 月 20 日に設定した。

② 発送数と回答数

今回の調査における最終的な回

答数は 130 件、回答率は 24.5%

	調査依頼数、回答数、回答率(%)			
	計	私立大学 教育後援会	公立大学 教育後援会	国立大学 教育後援会
アンケート送付数	530	430	73	27
アンケート回答数	130	87	32	11
アンケート回答率	24.5%	20.2%	43.8%	40.7%

であった。回答いただいた教育後援会の内訳は、私立大学・学園教育後援会が 87 件(20.2%)、公立大学教育後援会が 32 件(43.8%)、国立大学教育後援会が 11 件(40.7%)である。

③ 回答にあたって

本調査における教育後援会とは「より良い学生生活の環境づくりに向けた奨学支援、課外活動・福利厚生支援、キャリア形成支援などを実施する保護者組織(大学教育後援会など)」と暫定的に定義し、これを質問票で言及した。ただし、組織の名称や、事業の具体的な内容特定は、各会それぞれのご事情に合わせて判断・回答するものとした。回答にあたっては、ウェブサイト、電子メール、あるいは郵送での回答方式を用意し、いずれの選択も可能とした。回答の回収にあたっては、締め切りが近づいていることのご案内(リマインド)はしていない。



本アンケート調査は、日本学術振興会「科研費 19K02855」の助成を受けて実施するものです。

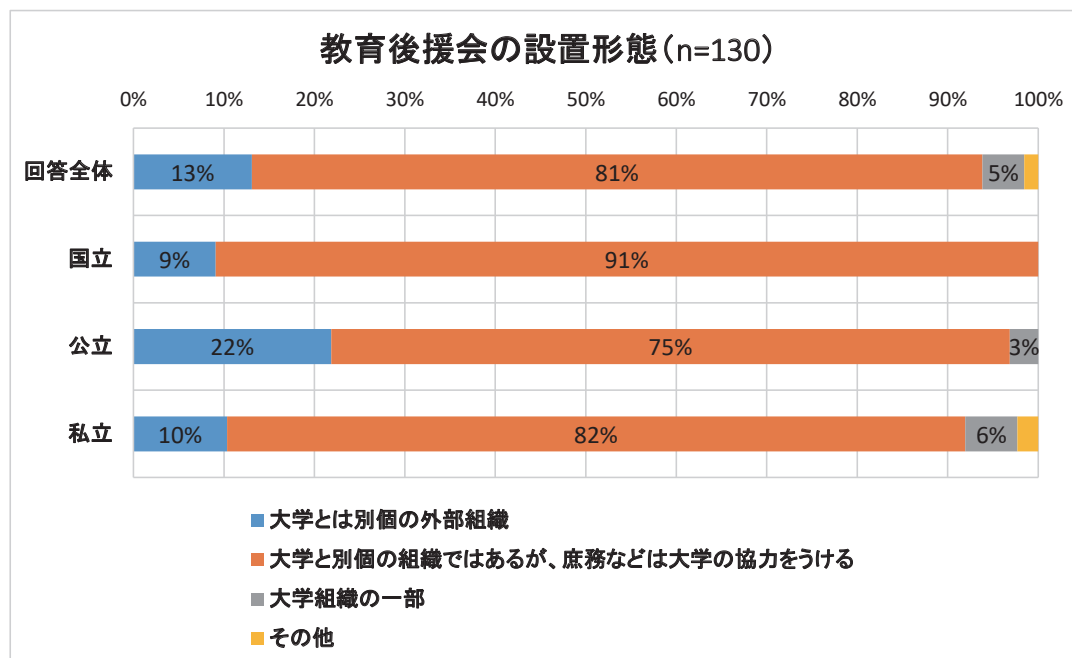
基盤研究(C)「大学教育後援会の事業と成果を指標として実施する大学評価の可能性をめぐる実証的研究」

研究代表者 大川一毅

回答集計

I 貴会について

設問： 貴会と大学との関係について、最も当てはまるものを1つお選びください。



➤ 教育後援会は、大学とは別個の組織ながらも、大学と密接な協力関係にある。

【ポイントまとめ】

- 教育後援会の組織形態として、「大学と別個の組織ではあるが、庶務などは大学の協力をうける」場合が全体として8割以上を占める。
- 「大学とは別個の外部組織」の回答は全体の約1割だったが、公立大学教育後援会の場合は約2割となる。
- 大学組織の一部として大学教育後援会が運営されている事例は少ない。教育後援会は大学とは密接な関係を持ちながらも、独立した組織として設置されている。
- 「その他」の事例として、「大学ではなく法人が設置している組織」や「大学、大学院、短大、高、中、総、幼で成り立っています。学園本部の協力あり」という自由記載があった。

【補足・自由記載より】

- ※ 役員の一部に大学の教職員が就任。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 大学職員(市からの派遣職員)が後援会庶務を兼務している。(公立大学教育後援会)
- ※ 父兄会として発足したが、保護者会に変更しました。現在は、同窓会等と共に大学校友会の構成組織となっています。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 後援会事務局長は大学事務局次長。事務局は大学内にあります。(公立大学教育後援会)
- ※ 副学長、学部長等、教職員数名に顧問として委嘱している。(公立大学教育後援会)
- ※ 大学とは別個の外部組織。庶務などは各校や学園の協力を受ける。(私立大学・学園教育後援会)

■ ご参考 ■ 「教育後援会・保護者会」の全国大学設置状況

今回のアンケート調査にあたり、2020年3月現在の全国大学における「教育後援会・保護者会」の設置状況についてwebサイトから確認しました。実際の正確な数ではないかも知れませんが、webサイト上で確認できただけでもわが国大学の7割近くで「教育後援会・保護者会」が組織されていました。国立大学や公立大学の約70%、私立大学では約64%でした。

以下表の数値は、設置状況を表にまとめたものです。今回回答のなかった教育後援会・保護者会組織様も含まれます。

なお、表中にある「教育後援会設置数」について、「学部」を構成単位とする教育後援会組織もあるため、それらを合計した総数は全大学数を上回っています(一つの大学が複数の教育後援会を組織)。

「大学教育後援会」の設置状況 (2020年3月現在)

教育後援会を設置する大学組織単位	国立大学	公立大学	私立大学	総数
大学単位	29	60	331	420
「大学・短大」単位	0	0	25	25
学部単位	58	1	29	88
学科単位	7	0	4	11
学園単位 (初等中等学校も含む)	0	0	14	14
学園グループ (複数大学)単位	0	0	1	1
キャンパス(校地)単位	5	3	2	10
教育後援会設置数 ¹⁾	99	64	406	569
教育後援会設置大学数(A)	61	63	391	515
2019年度大学数 ²⁾ (B)	86	91	607	784
設置比率(A/B×100)	71%	69%	64%	66%

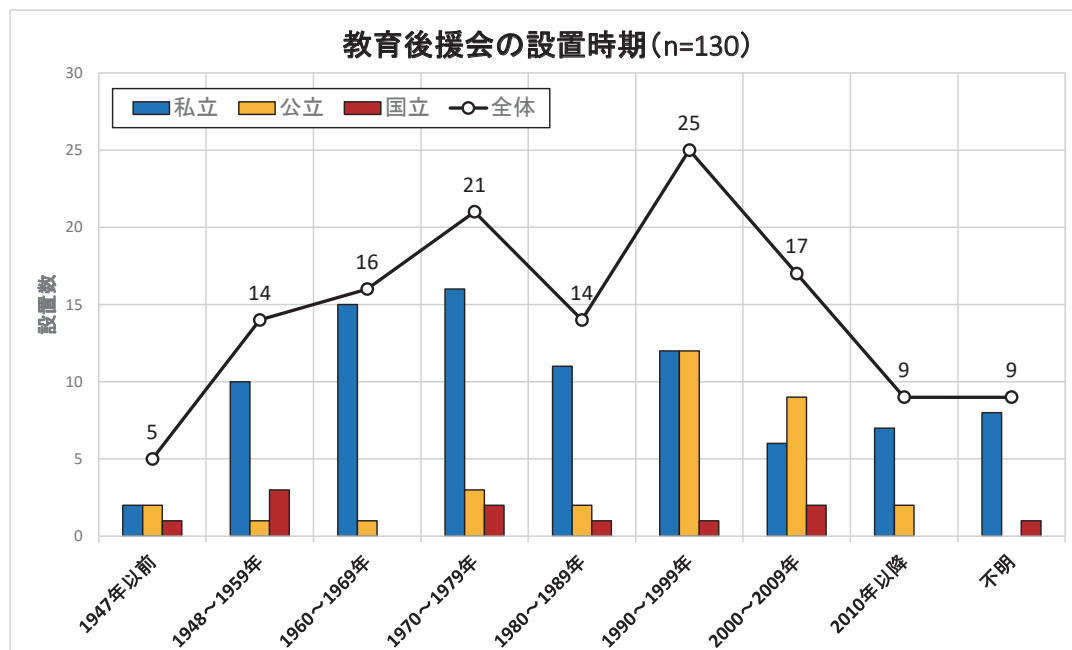
1) 学部単位の設置も含むため、合計数が大学数を上回る。

2) 「令和元年度 全国大学一覧」に掲載されている大学数を示す。

【ポイントまとめ】

- 私立大学と公立大学の場合は、「全学的教育後援会」として設置されていることが多い。
- 国立大学では、前身校の沿革やキャンパス立地などの要因から、学部単位で教育後援会を設置する場合は主流であり、全学的後援会組織を持たない大学も珍しくない。
- 私立大学にあっても、大規模総合大学では教育後援会を学部単位で組織することが多く、また医学部(医学科)でも学部(学科)単位での組織化が基本である。
- 教育後援会の組織単位として、同一の学校法人内で大学と短期大学が共通の教育後援会を組織したり、あるいは小・中・高・大など同一学園で一体化した教育後援会を組織したりする場合も多い。
- 同じ大学ではあっても、キャンパスの所在地が異なる場合は、支援ニーズや立地上の便宜から、キャンパス毎で教育後援会が組織される事例もある。
- 「卒業生、教職員、保護者、大学支援意欲のある篤志家」を「校友」とし、こうした「校友」によって教育後援会を組織する場合もあった。(通常、「校友」とは卒業生を言うが、こうした組織では保護者も「校友」としている)
- 同窓会(校友会)と「保護者会」が一体となって「教育後援会」を組織する事例もある。

設問： 貴会の発足時期をご教示下さい。「1960年代」など、おおよそでも結構です。不明の場合は空欄でも構いません。



➤ 大学設立と同時が多い教育後援会の設置。

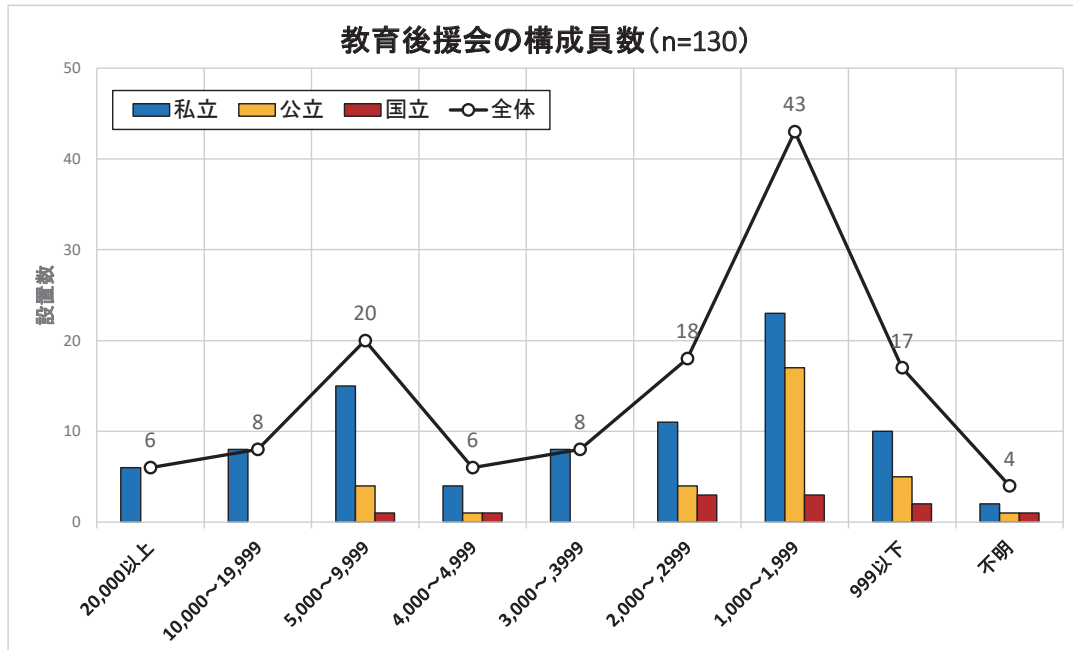
【ポイントまとめ】

- 組織の設置は 1970 年代及び 1990 年代に顕著で、開学と同時に設置（または設置準備）した事例が多い。
- 私立大学・学園教育後援会は 1970～1980 年代、公立大学教育後援会は 1990～2000 年代の設置が多い。
- 国立大学の教育後援会は、今回調査で回答のあった組織以外も含め、「新制大学発足直後」の 1950 年代、及び「国立大学が法人化」直後の 2004 年以降に多い。

【補足・自由記載より】

- ※ 1947 年、学生と大学を支援する為、保護者自ら立ち上げた組織です。（私立大学・学園教育後援会）
- ※ 同窓会組織と学生支援組織が一緒になっていた大学学友会が、2013 年 4 月に教育後援会と大学同窓会（全学同窓会）に分かれた。（公立大学教育後援会）
- ※ 1997 年後援会（在学生の保護者対象）設置。2001 年同窓会（本学卒業生）設置。2018 年 11 月、両会を統合し校友会として発足する。（公立大学教育後援会）
- ※ 大学の創設と同時に大学からの要請で設立された。（私立大学・学園教育後援会）
- ※ 1970 年頃の日本の大学が経験した大学紛争の中で、父母の大学への相談、教職員と学生のリーダーを交えての話し合い対応のための相互理解を求めてスタートさせた。（私立大学・学園教育後援会）

設問： 2019 年度段階における貴会構成員(正会員)数をご教示下さい。



➤ 大学教育後援会の構成員規模は 1,000 人～2,000 人の組織が多い。

【ポイントまとめ】

- 構成員数「1,000 人～2,000 人」という回答が、国公立いずれの教育後援会でも多かった。
- 教育後援会の構成員数は、おおむね大学の学生収容定員数に比例する。大学の学生定員規模が大きければ、後援会の構成員数規模も大きくなる。
- 構成員数 2 万名を超える教育後援会は回答中6組織あった。これらはいずれも私立大学の大規模伝統校である。構成員数が約 2 万5千名以上の教育後援会も回答中4組織あった。
- 学生収容定員よりも構成員数が多い場合は、教職員や卒業生保護者、あるいは卒業生が後援会員に加わっている。

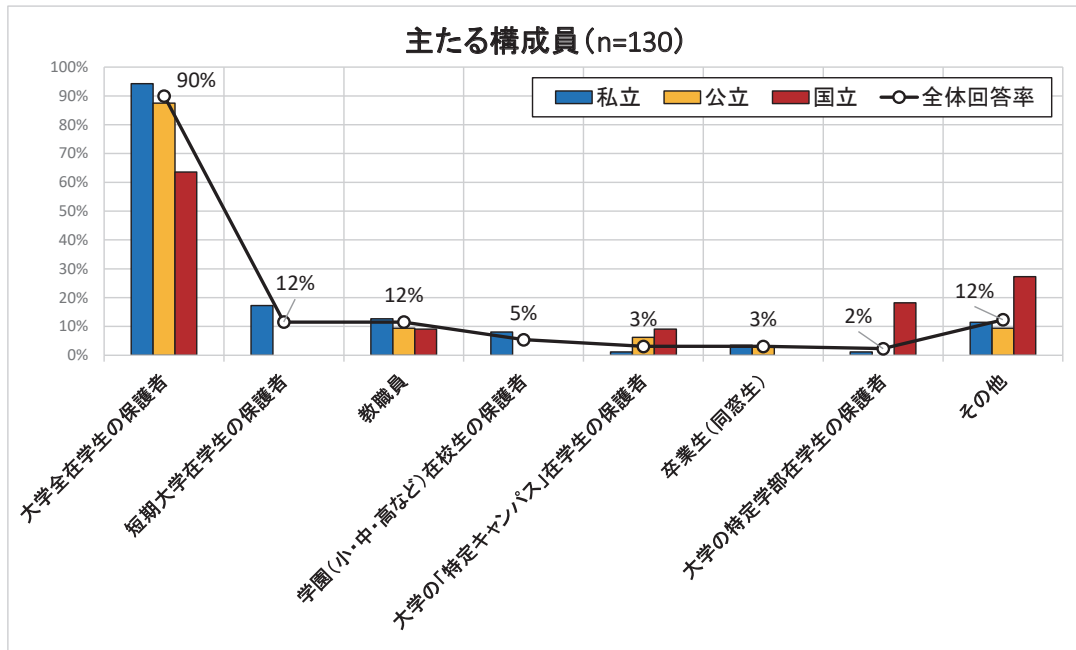
☆ topics

- あくまでも単純計算ではあるが、今回の調査で回答をいただいた教育後援会組織の大学にあって、学生一人あたりの後援会員数は「1.05 人(後援会員数/収容定員)」である。おおよそ各学生に一人の後援会員がサポートしていると思なすことができる。
- 「学生一人あたりの後援会員数」は「学生支援の手厚さ」として、大学を評価する上での指標ともなりうる。

【補足・自由記載より】

- ※ 正会員は、在学学生全員の父母、保護者であるが、任意加入、会費納入者を会員としている。兄弟姉妹が同時に在学中は会員1名分のため、人数カウントでは減っている。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 兄弟姉妹の学生もいらっしゃいますので、保護者会員数としては学生数を少し下回ります。(私立大学・学園教育後援会)

設問： 貴会の主たる構成員(正会員)についてご教示下さい。保護者とは「保証人」も含むものとします。



➤ 教育後援会の主たる構成員は保護者。

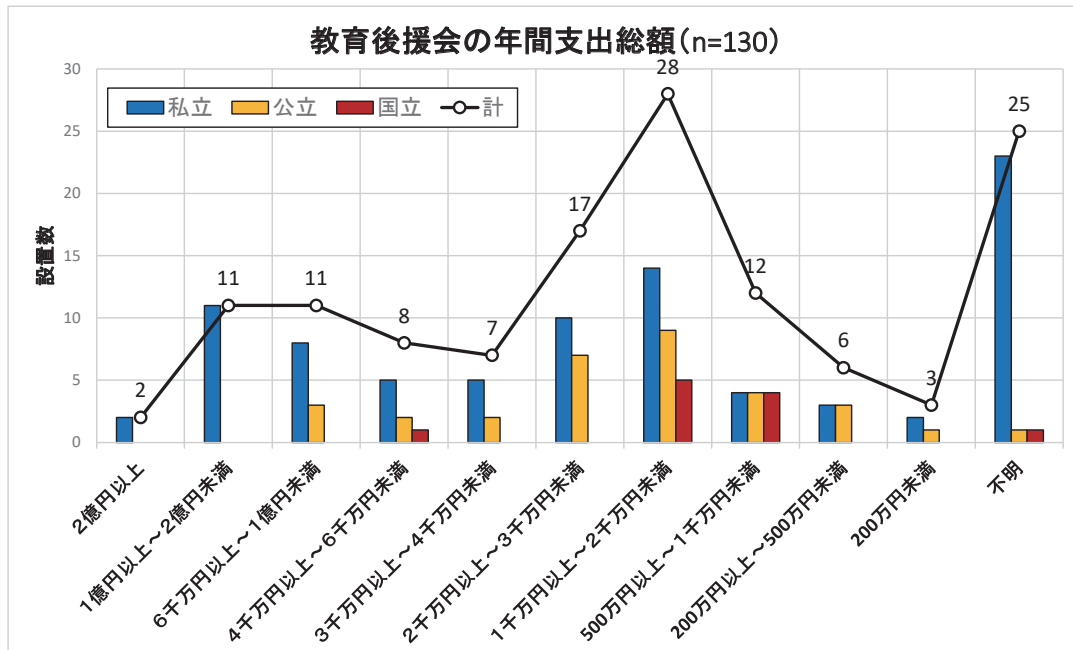
【ポイントまとめ】

- 教育後援会の主たる構成員は「大学の全在学生の保護者」とする場合が大半である。
- 「教職員」や「短期大学在学者の保護者も同一後援会の構成員」という回答も全体で1割以上あった。
- 構成員について、「大学の全在学生の保護者」以外の回答としては、「全学園の児童・生徒・学生の保護者」、「特定学部・学科在学生の保護者(医科大学など)」、「特定キャンパス在学生の保護者」などである。
- 「卒業生(同窓生)も構成員として参加」とする回答もあり、また「卒業生の保護者の加入を認めている」と記載した教育後援会もあった。

【補足・自由記載より】

- ※ 保護者以外の方でも本会の主旨に賛同する方は賛助会員になれる。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 正規学部学生のみ。大学院生・科目履修生等は含まず。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 加入は任意(加入率は99%以上)。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 卒業生の保護者も参加しています。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 全ての学園在学者(幼小中高大)の保護者。(私立大学・学園教育後援会)。
- ※ 会費を納入いただいた方(学部生、大学院生を含む)。(公立大学教育後援会)
- ※ 任意加入。加入者には会費納入(兄弟姉妹が在学中の場合は1名のみ納入)。社会人、留学生は加入していない。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 本会の事業を援助する篤志家も構成員としている。(国立大学教育後援会)
- ※ 当会は、首都圏(東京・神奈川県・千葉・埼玉)および北海道から沖縄まで全国に36支部があり、各地で活動を行っています。会員は全国に及びます。(私立大学・学園教育後援会)

設問： 貴会における一年間の支出総額(ただし、次年度繰越金を除く)を可能ならばご教示下さい。



➤ 年間支出総額は1千万円から2千万円が最多。2億円超の組織もある。

【ポイントまとめ】

- 一年間の支出総額は、大学の規模や教育後援会の会員数に応じると推測されるが、今回回答にあつて、学生の支援等に支出される経費の範囲は2億円以上の組織から100万円以下の組織まで広範囲にわたつた。
- 全体としては1千万円から2千万円の範囲の組織が多い。大学の設置別で言えば、国立大学教育後援会は500万円から2千万円の範囲、公立大学、及び私立大学・学園の教育後援会は1千万円から3千万円の範囲を年間支出総額とする場合が多い。
- 今回回答にあつて、1億円以上の総額経費とする教育後援会は13組織、2億円以上は2組織あつた。(いずれも私立大学・学園教育後援会)。

☆ **topics**

- あくまでも単純計算ではあるが、今回の調査で回答をいただいた教育後援会の年間支出総額について、学生1人あたり、年間1万円から2万円程度の支出をしている組織が多い。「年会費額」が「支出額」に相当。
- 納入された会費を貯蓄や投資にまわすのではなく、そのまま学生のために活用されていると考えられる。

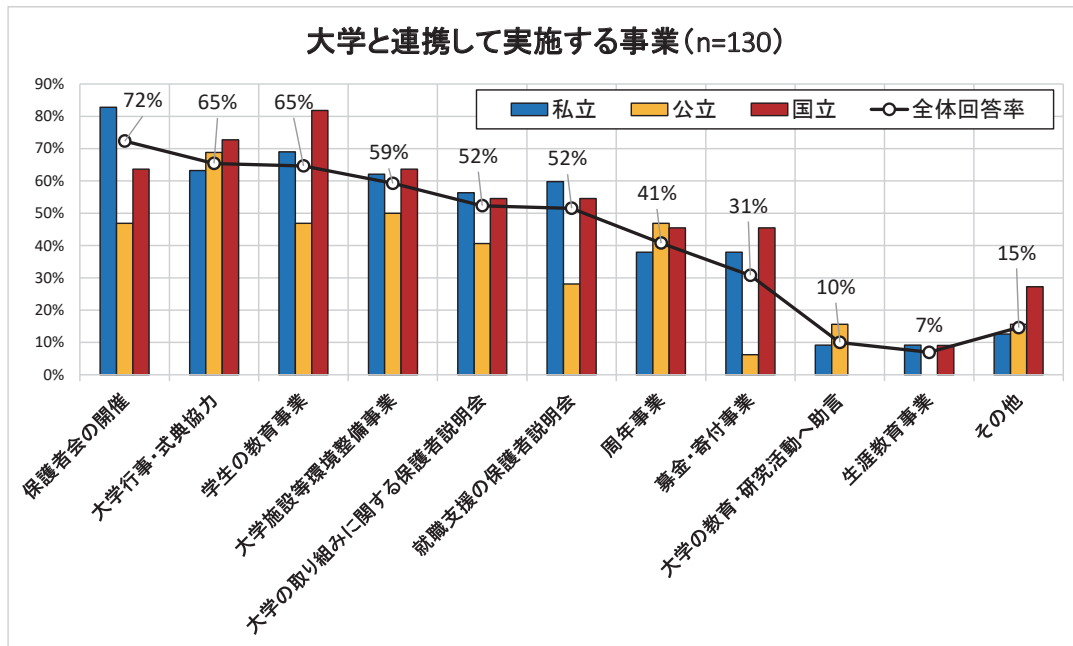
【補足・自由記載より】

※ (組織が)後援会であつた時には、バス待合所、憩いの広場(学生の自由スペース)として合計約4000万円を支援、(組織が)同窓会となつた時には、中型バスの購入として約2000万円、開学10周年、20周年には飲食費等の支援として合計約400万円を計上しました。(公立大学教育後援会)

※ 大学の行う国際交流事業やゼミ活動に対して後援会より援助金を支出しています。(公立大学教育後援会)

II 貴会の事業について

1. 貴会において行われている事業のうち、大学と連携して実施している事業があればご教示下さい。(複数選択可)

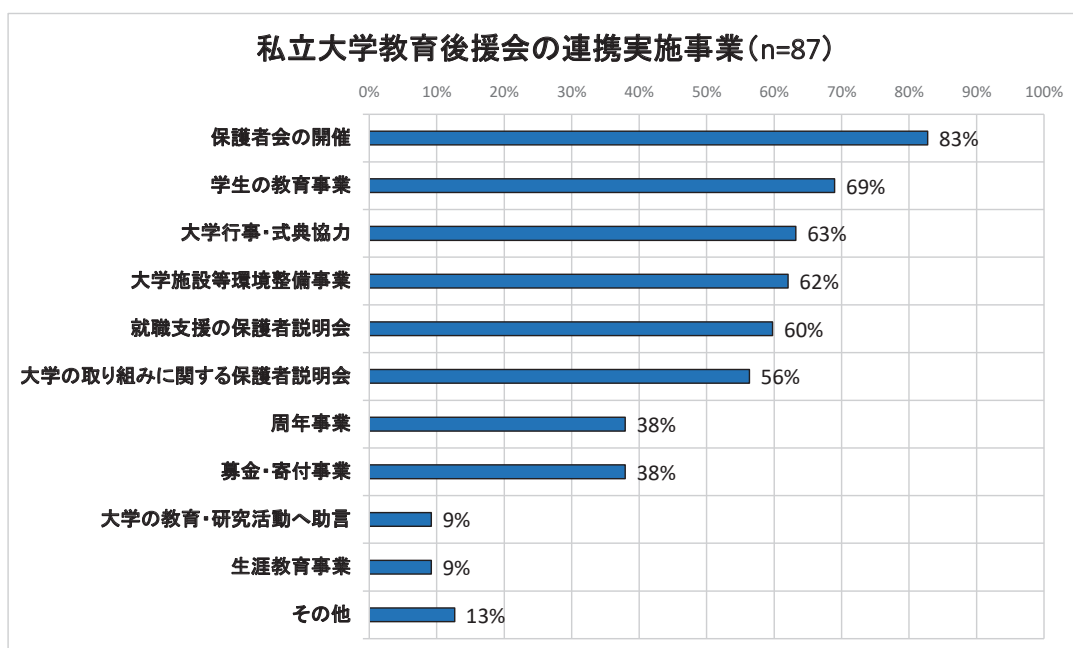


➤ 全体では「保護者会の開催」の回答比率が高い。ただし、国公私立で事業の回答比率傾向は異なる。

【ポイントまとめ】

- 教育後援会が大学と連携して実施する事業として、全体回答からの比率では「保護者会の開催（地方開催も含む）」、「大学行事・式典協力」、「学生の教育事業」等が6割を超える。
- 「大学の教育・研究活動へ助言」、「生涯教育事業」は回答比率1割以下となる。

○ 私立大学・学園教育後援会の場合

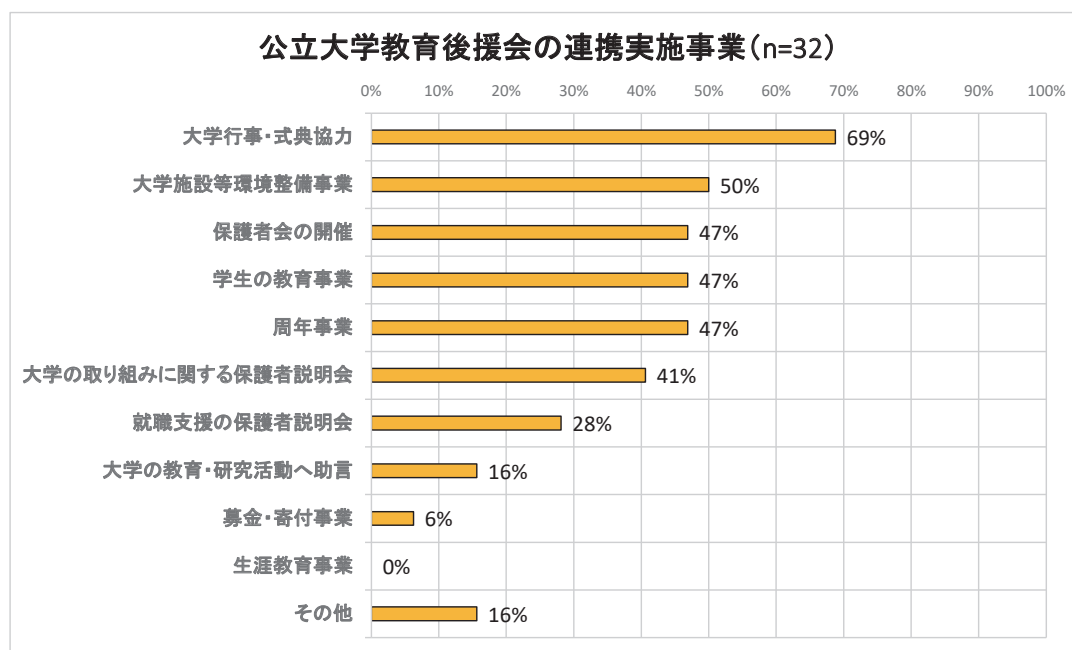


- 私立大学・学園教育後援会事業としては「保護者会の開催」の回答比率が最も高い。
- 「学生の教育事業」、「大学行事・式典効力」、「大学施設等の環境整備」、「就職支援の保護者説明会」、「大学の取り組みに対する保護者説明会」なども回答比率 5 割を超える。
- 「募金・寄付事業」や「周年事業」などは、低い回答比率ではないが、上位項目ではない。
- 「生涯教育事業」や「大学の教育・研究活動へ助言(アンケートや意見聴取)」は 1 割の回答比率。
- 「その他」として「奨学事業」、「就職対策支援」、「新入生オリエンテーション・県人会運営経費補助」、「学生スクールバス運営費補助」、「教職員への研究・研修費補助」、「全国大会参加寄付、卒業記念品」などの事業が回答された。

【補足・自由記載より】（私立大学・学園教育後援会）

- ※ 図書など大学への寄贈、海外留学やスポーツへの補助、課外活動・学生行事への支援なども行なっています。
- ※ 保護者会・保護者説明会の開催においては、大学校友会の支援を得ながら、準備・実行しています。会員の個人情報管理の点からも、大学との協力は、不可欠な状況となっています。
- ※ 福利厚生支援(スクールバス運行支援等)、学生生活支援(学友会、サークル活動支援等)などの取組みを推進。
- ※ 新入生オリエンテーション・県人会運営経費補助、学生スクールバス運営費補助、教職員への研究・研修費補助、同法人内(高校)全国大会寄付 ほか。
- ※ 記念事業等に対する協力、学生に対する奨学援助、学生の成績、課外活動等学生生活に係る個人懇談会。
- ※ 学生の課外活動援助費(インカレ・全国大会参加補助費等)。就職支援事業費(学生就職スキルアップ支援・学びと成長支援講座・就職開拓支援援助費)、奨学金(基金に毎年寄附)、学生生活費指導費(学生問題、事故対策)。
- ※ 朝食 100 円推進。学生は 100 円で朝食をいただき、後援会で補助。

○ 公立大学教育後援会の場合



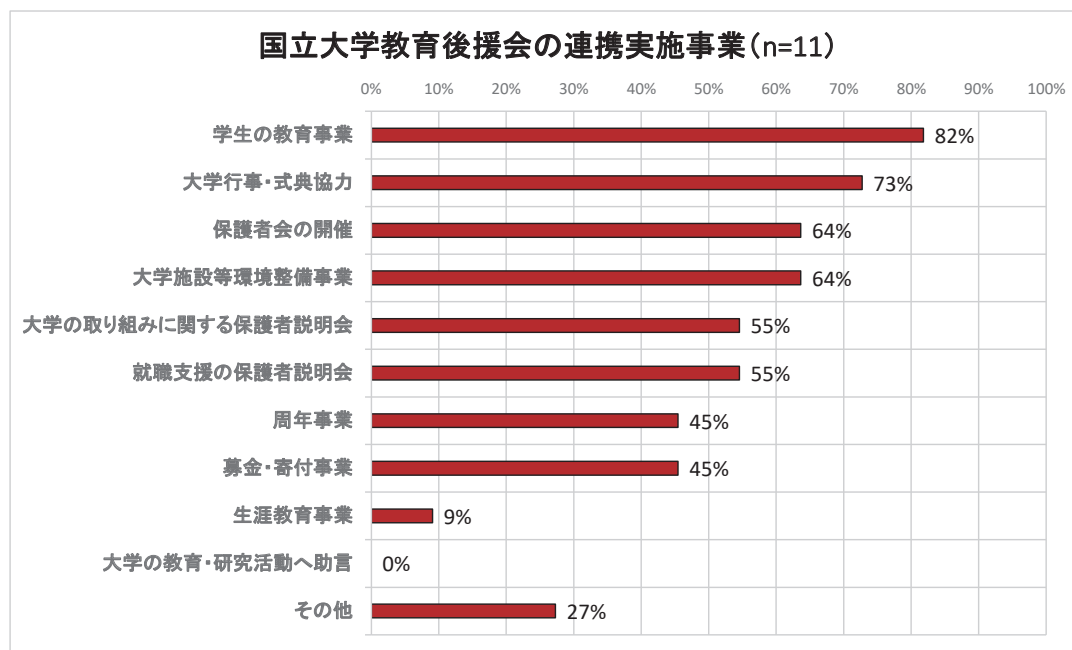
- 公立大学教育後援会による事業では、「大学行事・式典協力」の回答比率が最も高い。
- 公立大学教育後援会の回答比率にあって、全体平均よりも高い比率を示したのは「大学行事・式典協力」、「周年事業」、「大学の教育・研究活動へ助言(アンケートや意見聴取)」である。

- 「就職支援の保護者説明会」は私立大学や国立大学の教育後援会では力を入れているようだが、公立大学教育後援会の回答比率は低い。また、「募金・寄付事業」に関する公立大学教育後援会の回答比率の低さは際立っている。
- 「その他」の回答では「在学生の学生生活・学習・課外活動の支援」、「備品整備等、大学の教育研究環境の整備」などの支援が補足回答された。また、「奨学支援」や「就職支援」などの事業も回答されている。
- 教育実習や被災地ボランティアに関わる交通費の一部補助の事例も補足回答記載された。

【補足・自由記載より】（公立大学教育後援会）

- ※ 新入生オリエンテーション事業。入学式における保護者案内見学会。
- ※ 就職セミナーを大学と同窓会が共催し、本会が後援しています。
- ※ 在学生の学生生活、学習、課外活動のほか、備品整備等、大学の教育研究環境の整備などの支援に加え、時機に応じ必要な支援を実施しております。
- ※ 学生支援を主たる事業としており、学生の「課外活動」や「就職活動」、「国際交流事業」において大学と協力、連携して各種事業を行っている。なお、保護者に対しては年一回総会を開催して事業の報告を行っている。

○ 国立大学教育後援会の場合

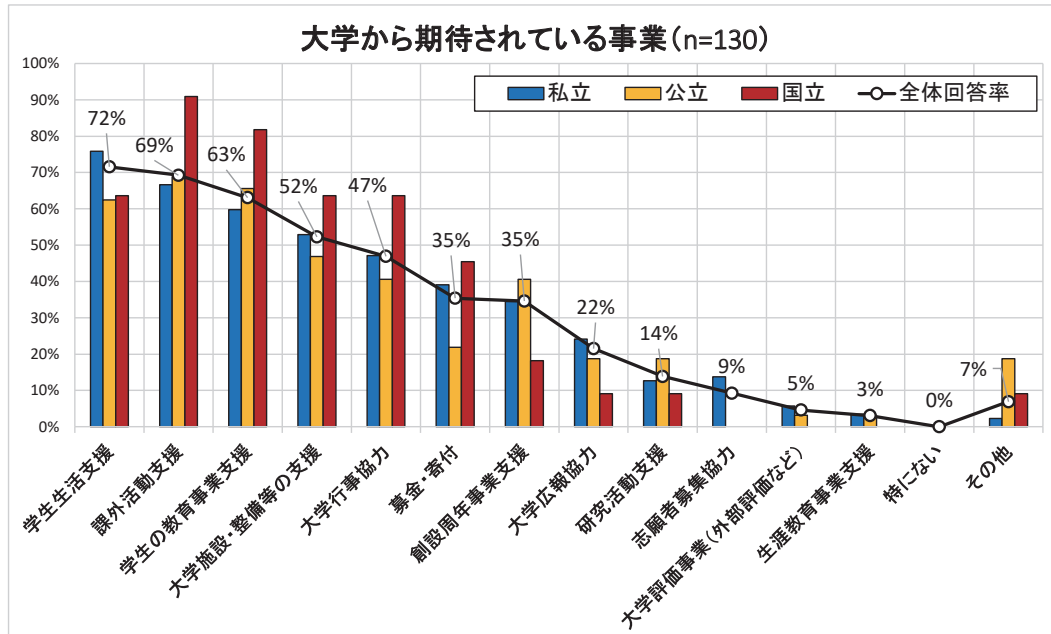


- 国立大学の教育後援会からの回答数は11件と少なかったが、最も回答比率の高かったのは、「学生の教育事業」であり、全体の回答比率を上回っている。
- 上記の他、全体の回答比率を大きく上回っているのは、「大学行事・式典協力」、「大学施設等の環境整備」、「募金・寄付事業」などがある。「大学の教育・研究活動へ助言（アンケートや意見聴取）」の回答はなかった。
- 「その他」の回答では「就職支援」「課外活動支援」などが回答記載された。

【補足・自由記載より】（国立大学教育後援会）

- ※ 課外活動支援、大学祭支援、国際交流支援、国家試験対策支援、少額一時貸付金等就学支援 他。
- ※ 九州各県（沖縄は除く）、山口県及び広島県における在籍学生の保護者に対するの説明会（就職状況、採用試験への大学等の取組、大学生活への質問に対する回答、後援会の活動報告等）。

2. 貴会の活動にあって、大学から特に期待されていると感じの活動があればご教示ください。(複数選択可)



➤ 大学は「学生生活支援」や「課外活動支援」を教育後援会に期待する傾向がある。

【ポイントまとめ】

- 大学が教育後援会に期待する事業は、「学生生活支援」、「課外活動支援」が全体回答比率で約7割以上。
- 「志願者募集協力」、「大学評価事業(外部評価など)」、「生涯教育事業支援」等の回答比率は1割以下。
- 学生の福利厚生に関する支援期待が高く、大学運営や大学企画に関する期待は概して低い。
- 「その他」回答の具体的内容として、「就職支援」、「奨学支援」、「国際交流・海外研修支援」などが記載。

➤ 事業とは大学と協力して実施。ただし期待されている事業は「大学設置形態」によって異なる傾向もある。

◇ **topics**

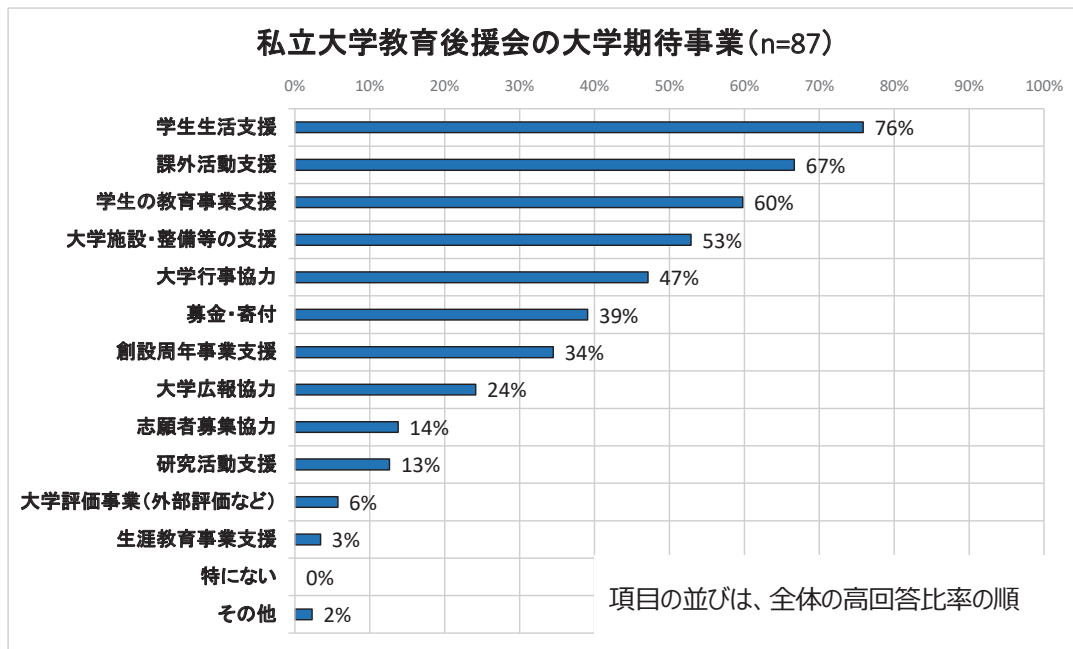
○ 「大学と家庭の連携を密接に」(私立大学・学園教育後援会会報の「会長挨拶」より引用)

後援会は大学と家庭との連携を密接にしながらか活動しており、後援会総会と地区後援会を実施してまいります。後援会総会では、大学の協力を得て、「保護者と学生のための教養セミナー」、「パイプオルガンコンサート」、「学科別面談コーナー」、「学生部・就職キャリア支援部・国際交流部による面談コーナー」、「学生の就職を考えるセミナー」など、多彩なプログラムを用意しております。昨年は、約900名の保護者の方々に後援会総会と大学開放プログラムにご参加いただきましたが、今年もより多くの保護者の皆さまが大学の教職員と意見を交わすことができ、有意義なひとときを過ごしていただきたいと願っております。

○ 「大学と一体となった支援の実施」(公立大学教育後援会会報の「会長挨拶」より引用)

私たち後援会では、この大学で学ぶ学生の教育研究や国際交流、クラブ活動等の課外活動の支援、そして就職開拓、福利厚生の充実のために様々な助成事業や企業見学、業界研究参加ツアー等の就職開拓事業、学生教育研究災害傷害保険等への一括加入などの外、卒業・修了生への記念品の贈呈や卒業アルバムの作成、祝賀会の開催など卒業・修了関連事業等々、学生の皆さんを多方面から支援する活動を行ってきております。後援会では、これからも大学と一体となってお子様方が学業、研究活動に取り組み、充実した大学生活を送ることができるよう、様々な事業を行ってまいりたいと考えております。

○ 私立大学・学園教育後援会の場合



- 私立大学・学園教育後援会回答（回答件数 87）では、「学生生活支援」の回答比率が最も高く、以下「課外活動支援」、「学生の教育事業支援」、「大学施設・整備等の支援」が回答比率 5 割を超える。
- 「課外活動支援」や「学生の教育事業支援」の回答比率は、国立大学・公立大学の教育後援会よりも低く、全体回答比率を下回る。
- 「志願者募集協力」の支援要請の回答比率は 14%ではあるものの、国・公立大学教育後援会の回答では見られない事業期待である（国・公立大学教育後援会の回答比率は 0%）。

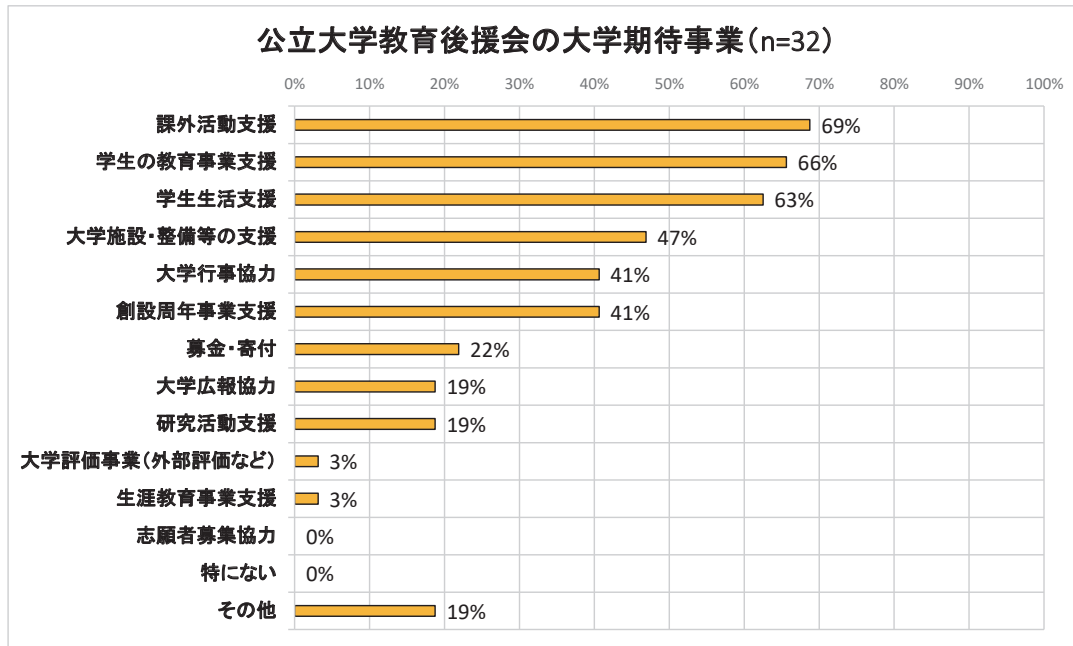
◇ topics

- 私立大学では課外活動について、同窓会やOB会など、卒業生からの支援が期待できるのかもしれない。
- 「志願者募集協力」の回答比率は 14%ではあるが、志願者募集にあたって学生保護者が果たす影響力を私学は認識しているのかもしれない。定員充足は私立大学の存続に関わるものであり、志願者募集に関する国公立大学との危機意識の違いともいえる。（17 頁の「topics」記載もご参照ください）

【補足・自由記載より】（私立大学・学園 教育後援会）

- ※ 課外活動支援・補助金の増額。 大学行事・・・発表会等の特別設備に対する補助金の増額。
- ※ 地方出身者の学生・保護者の状況・考え方などを大学に伝えることが必要とされていると感じます。東京 23 区内および埼玉県首都圏にキャンパスがあることから、大学は遠方の情報を得にくい点があると思います。また、金銭的な協力は、多くの場面で望まれる点だと思います。可能な範囲で検討しております。
- ※ 学生の保護者様にご不幸があったときの互助会的役割。
- ※ (1) 父母の会総会を入学式後に開催し、事業計画及び予算について報告を行う。役員会を開催し、大学と父母・保護者間のコミュニケーションを諮り、父母の会運営について協議決定をする。(年2回開催)。(2) 各支部会を開催し、予算、事業計画書等の報告、役員選出、就職・学生生活に関する講話、学生本人の成績配布及び個別面談等を行う。

○ 公立大学教育後援会の場合



- 公立大学の教育後援会回答（回答件数 32）では、「課外活動支援」、「学生の教育事業支援」、「学生生活支援」の回答比率が上位3項目であり、回答比率は6割を超える。
- 「学生の教育事業支援」、「創設周年事業支援」、「研究活動支援」は、全体の回答比率を上回っている。
- 「募金・寄付」の支援や「大学施設・設備等の支援」、「大学行事協力」については、国立大学・私立大学に比べて回答比率が低い。一方で「研究活動支援」や「創設周年事業支援」の回答比率は、国・私立大学・学園教育後援会の回答比率と比べて高い。
- 「その他」の回答として、「就職支援事業」が多い。

【補足・自由記載より】（公立大学教育後援会）

- ※ 課外活動には年間 約 650 万円、学生生活支援(特に就職活動助成)に約 300 万円、大学行事(卒業式、入学式、オープンキャンパス、大学祭等)には約 400 万円を支援。
- ※ 保護者にとって、本学の特色ある教育課程の中で学生生活、寮生活、留学、就職活動への関心や興味が極めて高く(心配を含め)、全国6会場で開催する「地区別懇談会」を通じて、保護者と大学との意見交換の場を設けています。
- ※ 就職支援事業。

◇ topics

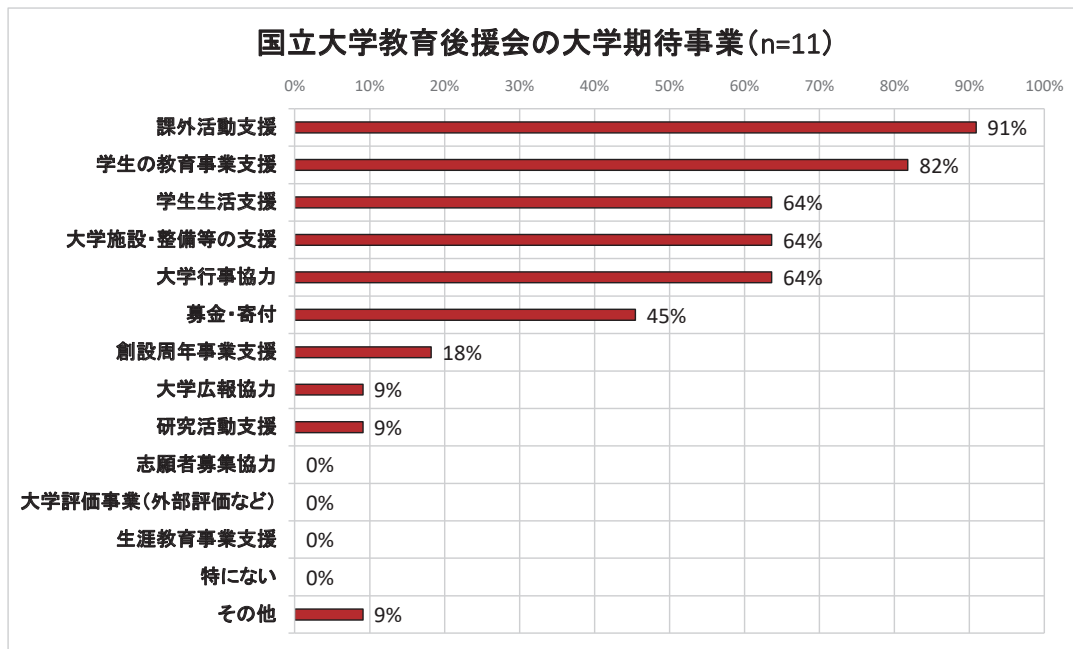
○ 「人生の礎を築くための支援にむけて」（公立大学教育後援会会報の「会長挨拶」より引用）

大学後援会は、在学生の保護者の皆様を会員として設立された組織であり、皆様からお預かりした会費により、サークル活動や資格取得の助成などの事業を展開し、また、大学と連携しながら、学生一人ひとりが大学生活を充実し、社会人として羽ばたいていけるよう人生の礎を築くための支援を行っています。

是非、この後援会を通じて大学のことやお子様の学生生活に興味を持っていただき、ご理解を深めて、大学や後援会をより身近に感じていただければと思います。

今回、後援会のホームページを立ち上げ、大学生活に必要な情報や保護者の皆様に役立つ情報を配信していきたいと考えています。

○ 国立大学教育後援会の場合



- 国立大学教育後援会（回答件数 11）では、「課外活動支援」、「学生の教育事業支援」の回答比率が 8 割を超え、これに「学生生活支援」、「大学の施設設備の支援」、「大学行事の協力」が続く。
- 国立大学の運営費交付金では支出しにくい領域での事業に期待が高い。特に「課外活動支援」の回答比率 91%、「学生の教育事業支援」の回答比率 82%は際だって高い。
- 一方で「創設周年事業」や「大学広報支援」、「研究活動支援」などは全体回答比率をはるかに下回る。
- 「志願者募集協力」、「大学評価事業（外部評価など）」、「生涯教育事業支援」については、回答がなかった。

◇ topics

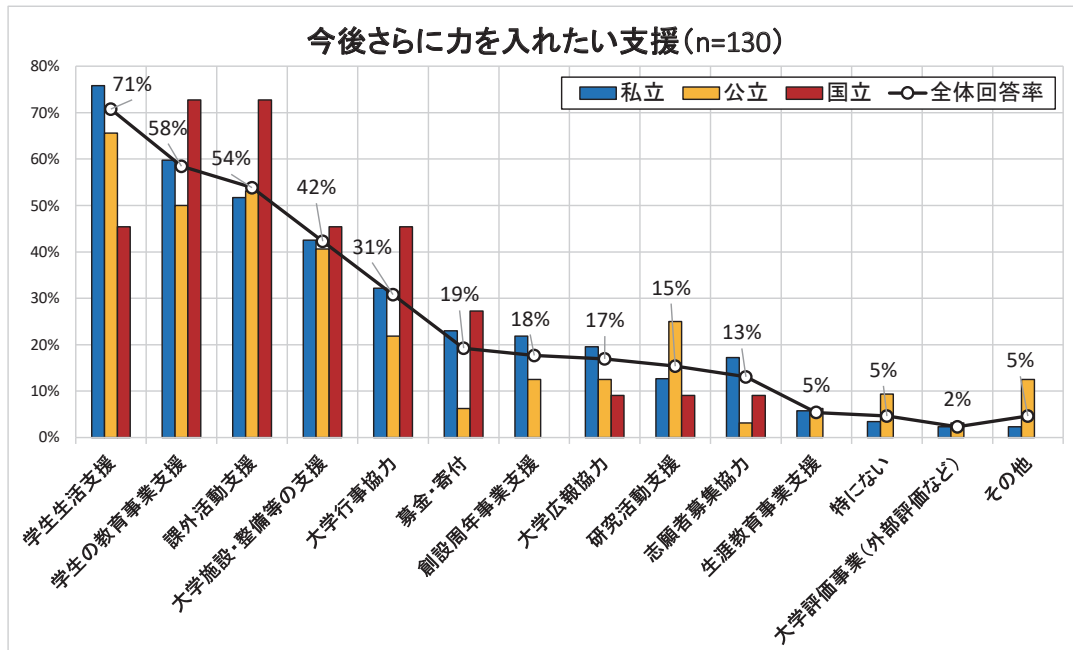
○ 「グローバル化を進める大学とその支援」（国立大学学部後援会会長による「新入生への挨拶」より引用）

現在、少子高齢化、人口減少等、都市をとりまく環境は大きく変化しています。経済、社会、文化的活動は複雑化且つ多様化し、グローバル化が急速に進んでいます。必然的にグローバル人材の需要も急速に高まっており、大学や企業においてはグローバル人材の育成が大きな課題と言えるでしょう。本学では、グローバル化に対応し、国際社会で活躍できる人材を育成するために、海外留学、国際交流の多面的な展開など、幅広い取り組みを行っております。教育後援会は こうした大学の取組みを応援しています。

○ 「大学の内容充実と学生の大学生生活を支えるために」（国立大学教育後援会会報の「会長挨拶」より引用）

今般政府が主導して推し進めている国立大学改革及び大学機能強化など、様々な課題・問題解決にあたっては、国からの運営費交付金だけではまかなえないものもございます。（中略）私どもは、昭和 24 年 10 月に学生の保護者及び有志の方々と諮り、後援会を組織して以来、大学の内容充実と学生の大学生生活をより有意義なものとするため、微力ながら協力援助をして参りましたが、この実情を痛感し、なお一層その協力体制の確立が望まれるところであり、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

3. 貴会のお立場から今後さらに力を入れたい支援事項があればご教示下さい。(複数選択可)



➤ 全体回答では、力を入れたいとするのは「学生生活支援」。大学設置別で見ると傾向の違いもある。

【ポイントまとめ】

- 今後力を入れたい事業では、「学生生活支援」が全体で 7 割以上の回答比率となった。補足記載でも「基本的には、学生に直接的に寄与できる事業を強化したいと考えている」という趣旨の回答がいくつかある。
- 「生涯教育事業支援」、「大学評価事業(外部評価など)」等の全体回答比率は 1 割以下。
- 「その他」回答として、「学生に対する就職活動、公的資格取得・国際交流に関する活動支援、図書購入支援」などがあつた。

☆ topics

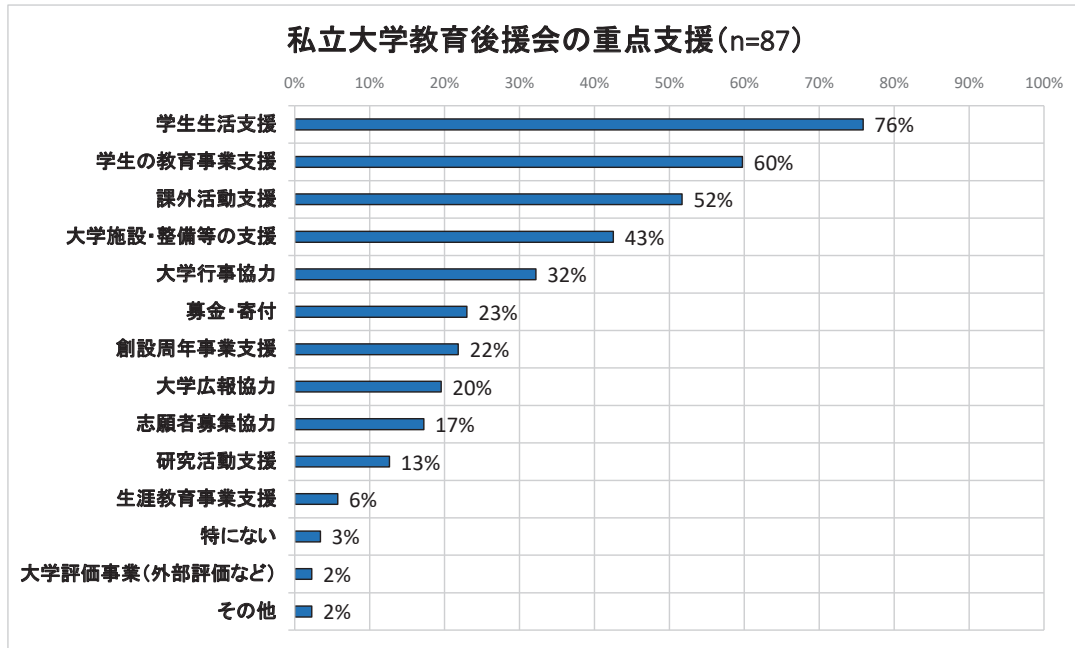
○ 「我が子を案じる親心はいつの時代も同じ」(私立大学・学園教育後援会会報の「会長挨拶」より引用)

後援会は大学と会員の皆様との連携を密にし、大学の維持発展と学生生活の向上に寄与することを目的として、奨学事業支援、教育活動支援、施設設備等充実支援を柱に様々な活動に取り組んでまいります。

具体的な支援活動としましては、学内奨学金の支給、海外留学支援、クラブ等への支援、学業成績表の送付、就職対策講座の補助、保護者懇談会の実施、アカデミックツアー、施設の改修・修繕および機器備品等設備の充実等と多岐にわたっており、その支援活動にはお預かりしました大切な後援会費を活用させていただきます。

中でも保護者懇談会は、保護者の皆様と大学を繋ぐ重要な事業として位置付けております。大学や後援会との情報交換を行うとともに、学生生活におけるご心配なこと、気がかりなことを全体あるいは個別に大学関係者と懇談する機会となっております。自宅からの通学、一人暮らしにかかわらず我が子を案じる親心はいつの時代も同じでございます。ぜひその機会に大学のこと、学生生活、就職活動などについて、ご理解を深めていただき、大学をより身近に感じていただければと思います。

○ 私立大学・学園教育後援会の場合



- 私立大学・学園の教育後援会回答（回答件数 87）では、「学生生活支援」の回答比率が高い。
- 「学生の教育事業支援」、「課外活動支援」の回答比率も 5 割を超える。

【補足・自由記載より】私立大学・学園 教育後援会

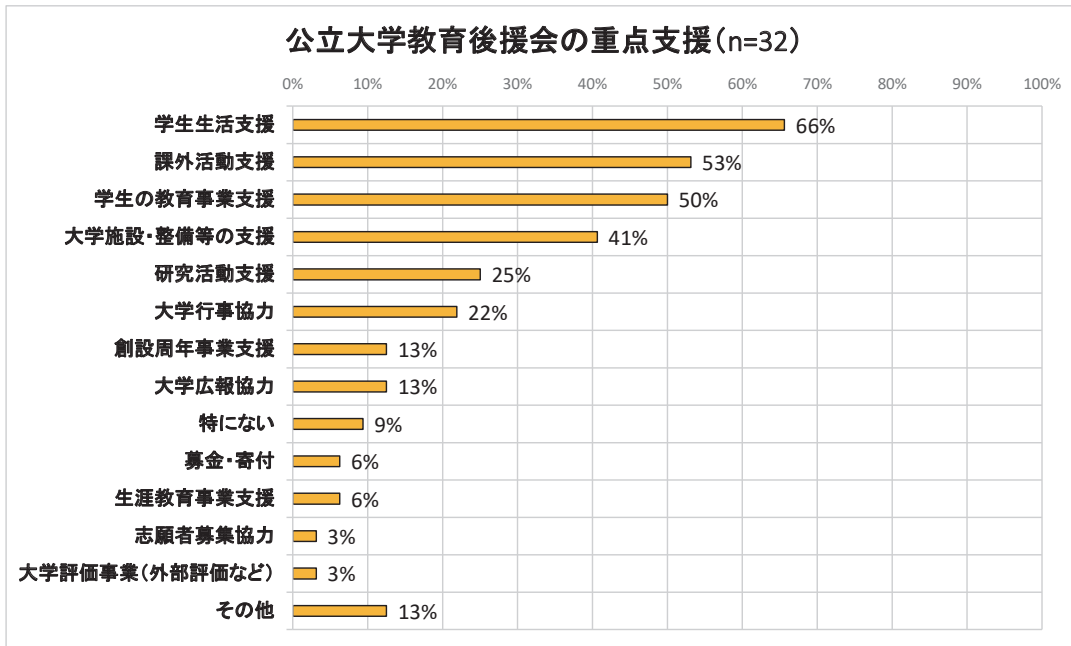
- ※ 新型コロナ・ウイルス感染症感染拡大に伴い、生活が困窮している学生への支援も検討中です。
- ※ 「健康面」での学生生活支援として「学食のチケット補助」と「朝食の安価提供(限定数量)」の増額。学生に対し東京方面へシャトルバスの運行補助も行っています。就職活動などに利用されます。
- ※ 学生の活動を支援し、実施した活動に自信を持てる人として卒業していただきたいと思います。ここで得た自信は、就職活動でも、その後の社会人活動でも、生きてくると信じています。
- ※ ①遠方保護者との連携を通じ大学への理解を深め機会と志願者獲得へ繋げたい。②卒業生(企業)との連携をはかり特に学生地元企業への就職先紹介などネットワークの構築。③現役学生に活躍をしている企業、卒業生紹介等を通じ大学へ愛着と誇りを持ち社会貢献出来る人づくり。
- ※ ひとつの組織になっているので、(大学や学園との)情報共有は出来ていると思います。状況を見ながら、父母の会として支援して行ければと思います。
- ※ 父母の会セミナー開催(大学と協力して行う)。

◇ topics

○ 「志願者確保に向けた大学支援後」（私立大学・学園教育後援会会報の「会長挨拶」より引用）

一人でも多くの高校生が本学に入学するように保護者の皆様方にご協力を願い、大学のさらなる発展に寄与することも大きな目的としております。近年の経済不況、少子化問題等、数々の不安を抱えるなか皆様方には当大学に対して絶大なるご支援ご協力をお願い申し上げます。

○ 公立大学教育後援会の場合

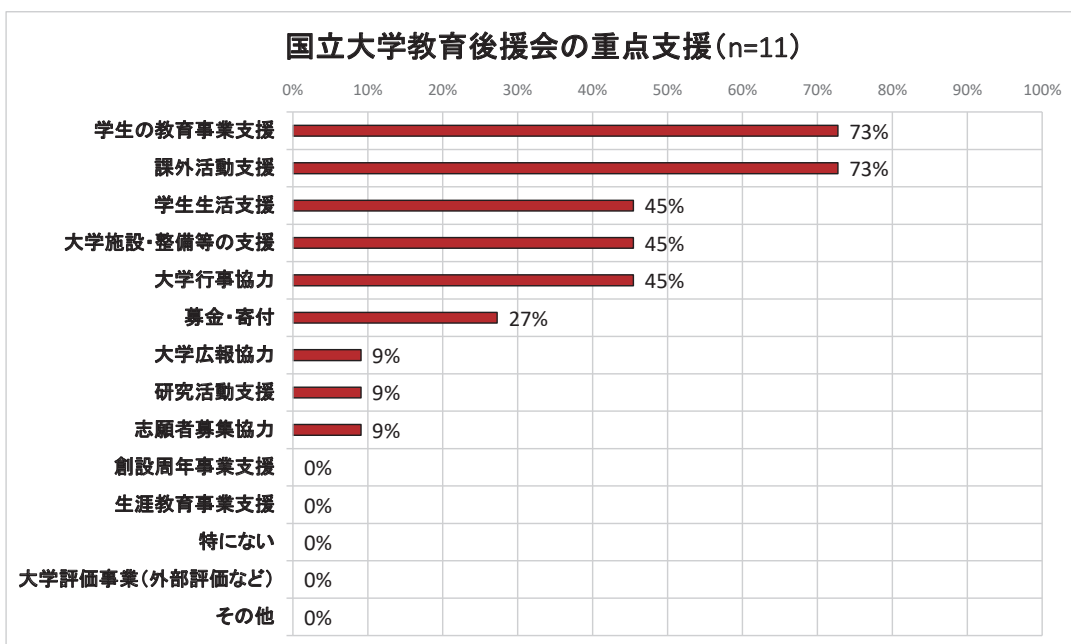


- 公立大学の教育後援会回答（回答件数 32）では、「学生生活支援」、「課外活動支援」、「学生の教育事業支援」などの事業が回答比率 5 割を超える。
- 公立大学教育後援会の回答は、「研究活動支援」を除き、全体の回答比率を下回る。

【補足・自由記載より】 公立大学教育後援会

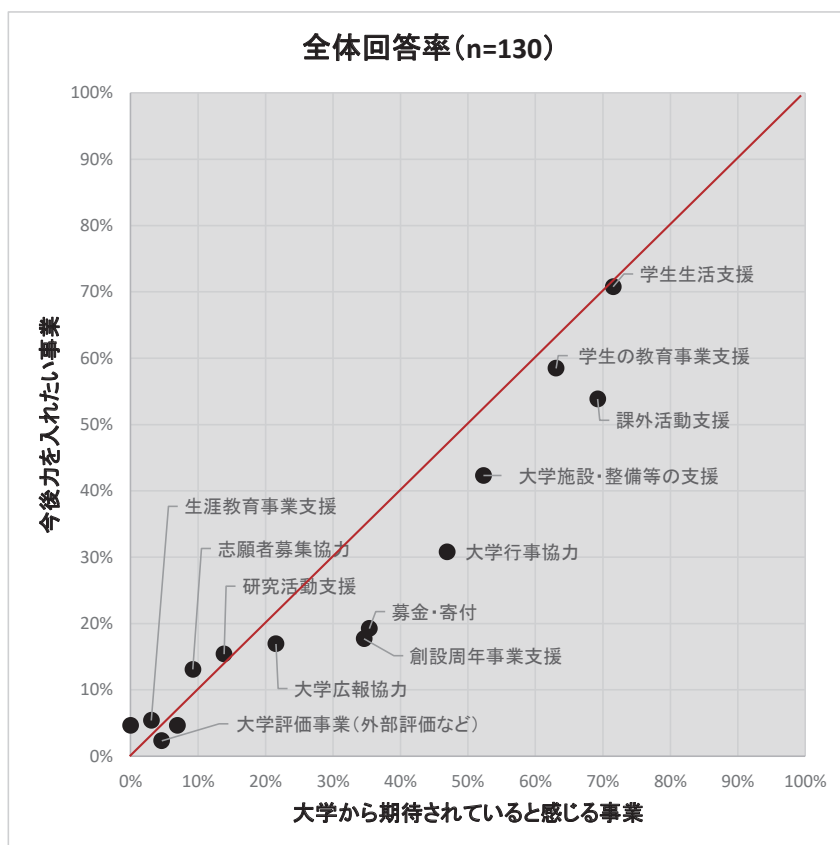
- ※ 緊急時対応に大学が必要とする支援を積極的に進めたい。
- ※ 地区別懇談会、大学祭の際の保護者会の主催行事については、保護者、大学の交流の場を設けるため、今後とも継続実施していきたいと考えております。また、予算上可能であれば、図書購入の助成も行いたいと考えております。

○ 国立大学教育後援会の場合



- 国立大学の教育後援会回答（回答件数 11）では、「学生の教育事業支援」、「課外活動支援」などの回答比率が高い。
- 学生生活支援については 45% の回答比率であり、必ずしも低回答率というわけでもないが、公立大学や私立大学・学園の教育後援会の回答比率に比べれば低く見える。

教育後援会が大学から「期待されている事業」と、「今後力を入れたい事業」の回答比率を照らしあわせるならば、全体回答では下記のグラフとなる。赤軸に近いほど両者の意志は一致しており、軸より右側に行けば大学の期待が強く、左側ならば教育後援会の意欲が強いと考えることが出来る。「%」の数値は、設問の回答比率である。

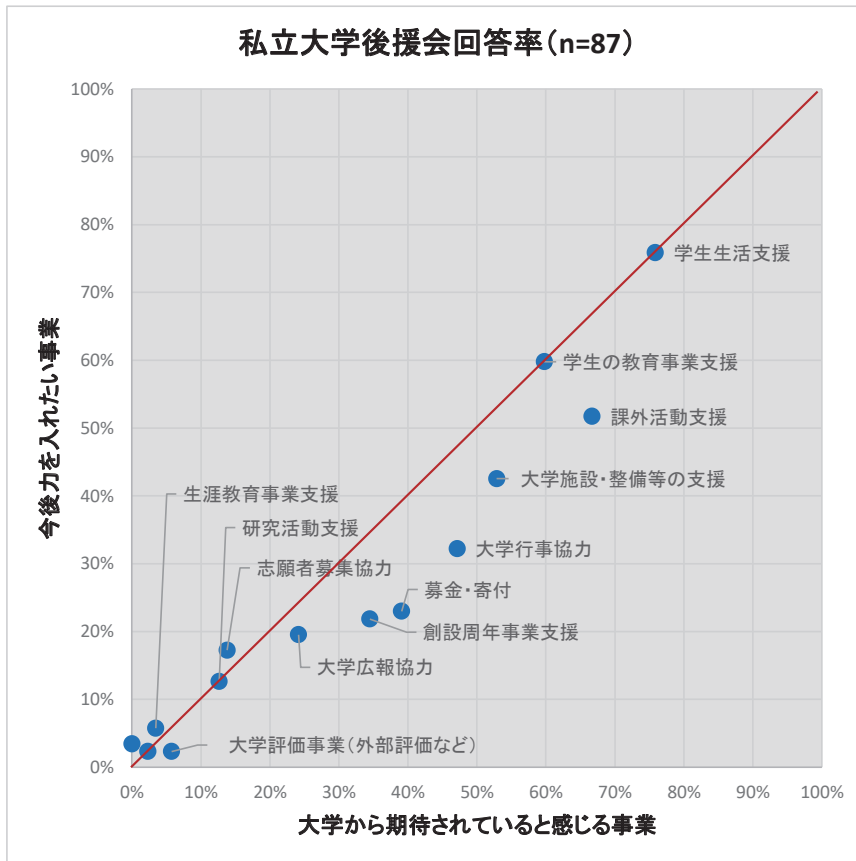


- 「周年事業」、「募金・寄附」、「大学行事」について、実施期待と実施意欲の乖離。
- 「志願者募集」協力に意欲的な後援会もある。

【ポイントまとめ】

- 全体結果として、「大学からの期待が高い」にもかかわらず、教育後援会として「積極的に力を入れる意欲が低い」事業として「創設周年事業支援」、「大学行事協力」、「寄附・募金」、「課外活動支援」などがある。
- 大学教育後援会が今後力を入れたい事業として、学側からの期待よりも高い回答比率を示しているのは「志願者募集協力」である。

○ 私立大学・学園教育後援会の場合



- 私立大学・学園教育後援会の場合、大学の期待と教育後援会の事業意欲が乖離しているのは「募金・寄付」、「大学行事協力」、「課外活動支援」、「創設周年事業支援」である。
- 「課外活動支援」への大学からの期待はあるが、教育後援会の支援強化意欲は高くない。

◇ topics

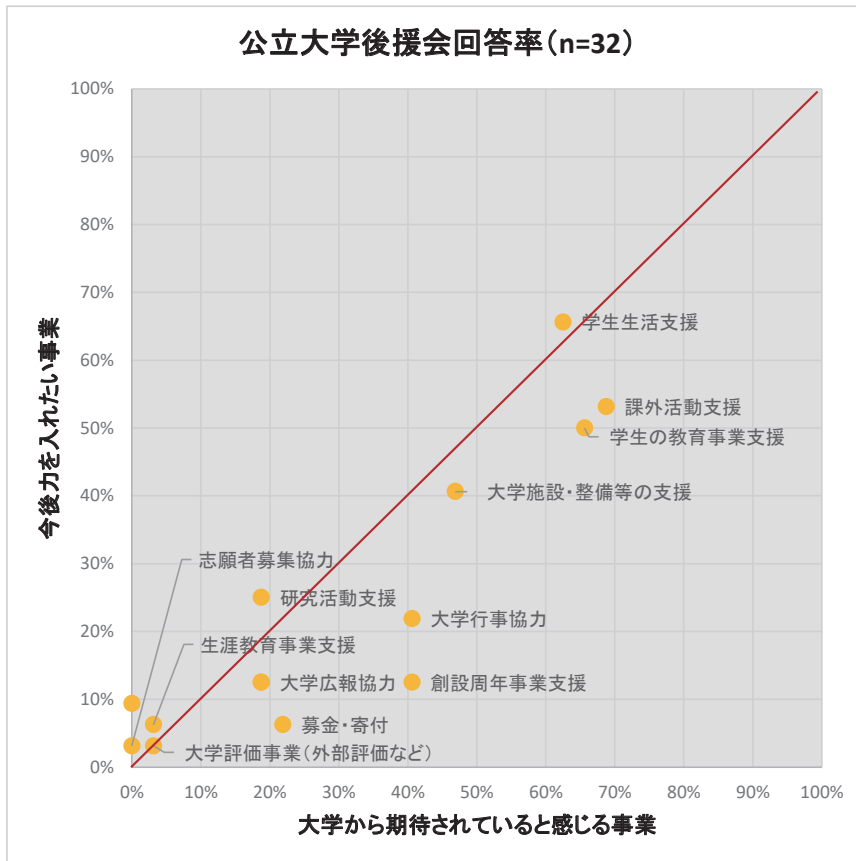
○ 「大学と後援会の協働教育の実施」(私立大学・学園教育後援会会報の「会長挨拶」より引用)

単に大学への寄付、援助を目的とするのではなく、教授とともに教育に貢献するため、父母と大学が学生を中心に教育面で対等に話し合い、互いに理解を深めて相互の橋渡し役となるという創設時の思いは、半世紀を経た今日も脈々と受け継がれております。

○ 「認知度向上に向けた取り組み」(私立大学・学園教育後援会会報の「会長挨拶」より引用)

今年度は「後援会の更なる認知度と知名度の向上」に努めてまいります。昨年度、後援会のシンボルマークを作成しました。シンボルマーク作成にあたり、本学学生よりデザインを募集し、後援会全役員による投票により選定いたしました。22名(29作品)と多くの学生から才能溢れる作品を応募いただき、役員の皆様も悩みながら投票されていました。シンボルマークは、今年度より後援会が作成するオリジナルグッズや各種広報物などに広く活用し、後援会の更なる認知度と知名度の向上に役立てていきます。今年も「父母懇談会」が8月から始まります。後援会では父母懇談会を会員の皆様と大学をつなぐため、また会員皆様の懇親と情報交換の場として、重要な事業と位置付けております。今年度は各キャンパスと7都市、計12回開催されます。父母懇談会は、お子様の大学での様子や成績、就職・進学などについて、各学科の先生をはじめ学校関係者から話を聞ける貴重な機会でもあります。また後援会活動紹介の場でもありますので、ぜひご参加いただき、大学や後援会活動に対するご意見やご感想をお聞かせいただければ幸いです。

○ 公立大学教育後援会の場合



- 公立大学教育後援会でも、「課外活動支援」、「学生の教育事業支援」、「創設周年事業支援」、「大学行事協力」、「募金・寄付」の事業について大学からの期待はあるものの、教育後援会の事業意欲は積極的ではない。特に「創設周年事業支援」における大学の期待と、それに対する後援会実施意欲との意識乖離は大きい。
- 国立や私立大学・学園の教育後援会に比べれば、公立大学教育後援会回答では「研究活動支援」に関わる事業意欲があることを確認できる。

【補足・自由記載より】

- ※ 学生支援を主体としているため、教育の充実と運営については、大学側が適切に実施しており、支援を必要としていない。(公立大学教育後援会)

◇ topics

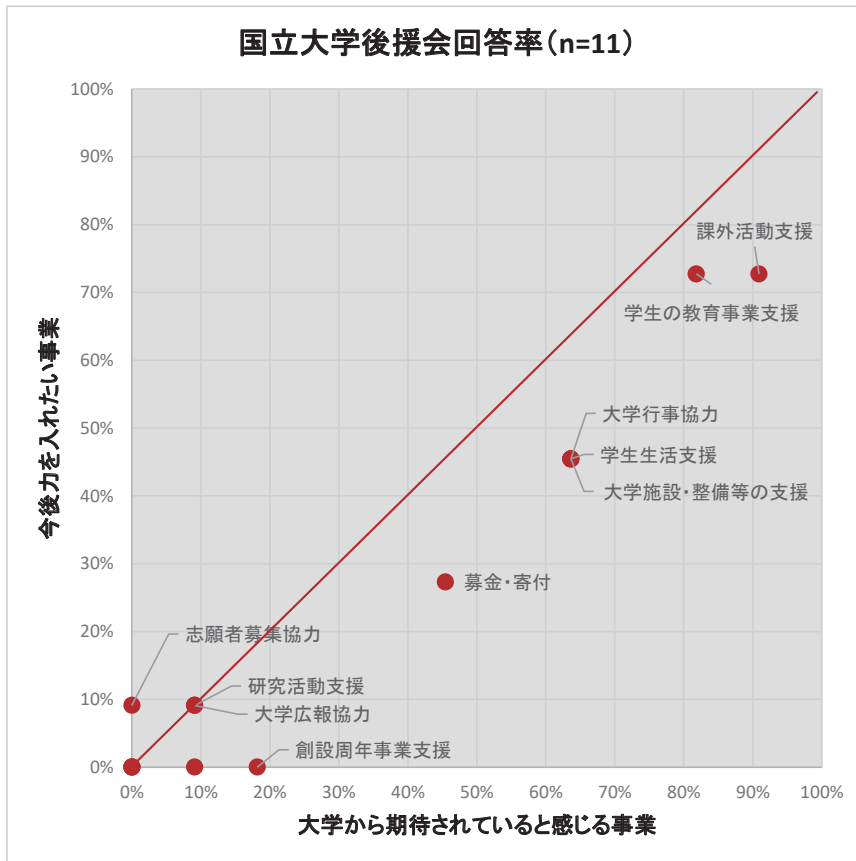
○ 「保護者の関心と教育後援会の役割」(公立大学教育後援会会報の「会長挨拶」より引用)

保護者にとって最も関心があり、大学に期待しているのは、卒業後のお子様の就職ではないかと思えます。どのような職業・会社を選ぶかは一生の中で最大の選択といえます。最適な選択ができるよう学生の就活に必要なかつ十分な就職情報を提供し、部活を充実させることに後援会の存在意義があると思えます。

○ 「後援会と学生との交流」(公立大学教育後援会会報の「会長挨拶」より引用)

学生の皆さんとは、年に1回開催している「学生懇談会」において、学園祭やクラブ活動の予算のこと、物品購入の要望などについて意見交換をしています。与えられた時間の中で自分たちの現状や要望、「思い」についてプレゼンテーションをし、私たちからの質疑に答える彼らのしっかりとした姿に感心させられることが多々あります。

○ 国立大学教育後援会の場合



- 国立大学教育後援会の回答は11件と少ないため傾向があまりみられないが、総じて言えば「大学の期待」に対し、教育後援会の「事業意欲は低い」という結果になっている。ただし「志願者募集協力」については積極的とも言える。
- 「生涯教育事業支援」、「研究活動支援」、「大学広報協力」、「大学評価事業」などは、「大学からの期待」及び「教育後援会が力を入れたい事業」のいずれとも回答比率は0%だった。
- 国立大学教育後援会では「力を入れたい事業」として「学生の教育事業支援」が回答比率73%と最上位であり、大学から期待されている事業も「学生の教育事業支援」が回答比率82%で両者の意向は近似している。
- 同様に、「課外活動支援」も国立大学教育後援会が力を入れたい事業として回答比率73%の最上位項目であり、これは「大学から期待されている事業」としても最上位の回答比率91%である。

☆ topics

○ 「課外活動や経済活動に特化した支援」（国立大学教育後援会会報より引用）

近年、大学でも基金事業が立ち上がり、様々な支援方策が実施され、学生後援会の支援と類似したものが多く見受けられるようになりました。そこで、後援会の組織や事業について見直しが検討され、課外活動支援や緊急時における経済支援などに特化した支援を行うこととなり、このたび、大学総長が後援会の会長に就任することとなりました。

大学生にとって、勉学が第一義であることはいまでもありませんが、課外活動をはじめとした授業以外の時間における経験は、この学生時代にしか経験できないことがたくさんあるかけがえのないものであり、これから社会を担っていく人間形成の観点からも大切な時間であることは間違いありません。

学生が、本学の学生であったことを誇りに思い、世界で活躍できる人として成長できるよう、会員である保護者の皆様や教職員が一体となり支援、学生への支援を続けていきます。

Ⅲ 貴会（大学教育後援会等）の役割（横列の項目ごとに一つご回答ください）

貴会の果たしている役割について教えてください。該当するお考えを一つ選択願います。

（組織の見解ではなく、あくまで個人的なお考えで結構です）。

全体の回答結果(130件)を下記の表に示す。

役割	非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったく思わない	未回答
保護者と大学の架け橋	55	53	18	2	0	2
学生の福利厚生支援	38	65	20	3	2	2
大学教育充実の支援	29	68	25	6	0	2
学生の就職支援	23	60	36	6	3	2
保護者の大学参加促進	25	57	39	6	0	3
寄付・募金事業の支援	9	58	40	18	3	2
大学運営の支援	14	51	41	19	2	3
大学の認知度向上	13	43	54	15	3	2
大学と社会との接続	5	31	70	18	4	2

「非常にそう思う」・「そう思う」を「肯定的回答比率」としてまとめ、「どちらとも言えない」を「中間回答比率」、「そう思わない」・「全く思わない」を「否定的回答比率」とまとめるならば、回答結果は以下になる。

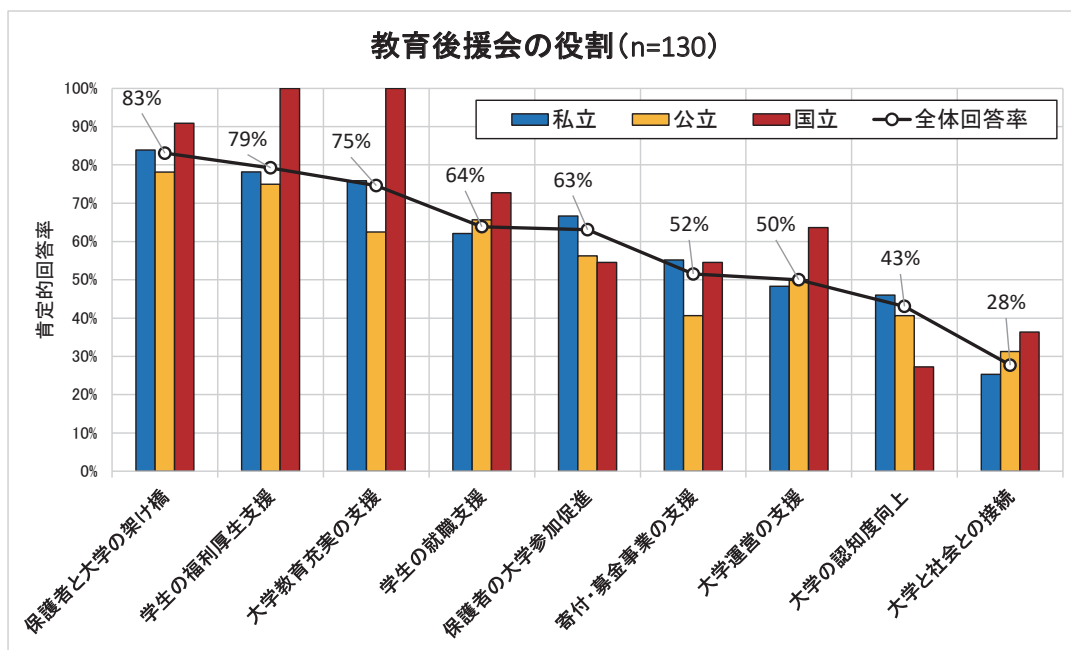
役割	肯定的回答率	中間回答率	否定的回答率
保護者と大学の架け橋	83%	14%	2%
学生の福利厚生支援	79%	15%	4%
大学教育充実の支援	75%	19%	5%
学生の就職支援	64%	28%	7%
保護者の大学参加促進	63%	30%	5%
寄付・募金事業の支援	52%	31%	16%
大学運営の支援	50%	32%	16%
大学の認知度向上	43%	42%	14%
大学と社会との接続	28%	54%	17%

➤ 教育後援会が自認する役割の最上位は「保護者と大学の架け橋」

【ポイントまとめ】

- 組織の会長（もしくは役員）が「教育後援会の役割」として回答したのは「保護者と大学との架け橋」が全体において最も高い比率であった。大学と教育後援会の連携がとれていることは、大学の評価指標となりうる。
- 「学生の福利構成支援」、「大学教育充実の支援」の肯定的回答比率も 7 割を超える。このことは教育後援会会則の目的規定と一致する。
- 「学生の就職支援」や「保護者の大学参加促進」などは、必ずしも会則等に規定されている目的や事業ではないが肯定的回答比率は 6 割を超えた。
- 「否定的回答比率」項目としては、「大学と社会との接続」、「大学運営の支援」、「寄付・募金事業の支援」、「大学の認知度向上」などがあるものの、いずれもわずか 10% 台の回答比率である。むしろこれら項目に対する「肯定的回答比率」の方が高い。「大学運営の支援」、「寄付・募金事業の支援」、「大学の認知度向上」などの肯定的回答比率はいずれも 50% 前後にのぼる。

大学の「設置別」で、「教育後援会の役割」に関する肯定的回答比率を示したのが下記図である。



- 私立大学・学園教育後援会は、おおむね全体回答と近い回答比率となるが、「保護者の大学参加促進」(67%)については全体回答比率を上回る。
- 公立大学教育後援会では、自らの役割について「学生の就職支援」(66%)や「大学と社会との接続」(31%)を肯定する回答比率が高い。このことについて、今回回答のあった公立大学は、医療・福祉系の大学(学部)が多く、そのうちの回答補足記載では「学生の就職にあたっては、国家資格の取得が求められる場合があり、これに備え、金銭的な補助も含めた積極的な支援が必要である」と説明されていた(受験料、交通費、講習経費、実習経費)。
- 公立大学教育後援会が「大学教育充実の支援」(63%)や「寄付募金事業の支援」(41%)を肯定的に回答する比率は全体平均に比べて10ポイント以上低い。
- 国立大学教育後援会では、「学生の福利厚生支援」、「大学教育充実の支援」を自認する肯定的回答比率が100%である。さらに「保護者と大学との架け橋」(91%)、「学生の就職支援」(73%)、「大学運営の支援」(64%)という回答比率も全体より高い。その一方で「大学の認知度向上」(27%)を自認する肯定的回答比率は低い。

【補足・自由記述より】

※ 保護者に大学の特色ある教育内容を理解してもらうとともに、不安を解消するための一助となりたいと考えております。(公立大学教育後援会)

◇ topics

○ 会報等の「会長挨拶」から抽出する教育後援会の役割(キー・フレーズ)

- 教育後援会・保護者会の「会報」や「後援会だより」等に掲載される「会長挨拶」では、「後援会の役割」について語られることが多い。これに焦点をあててテキスト分析するならば、「架け橋、パイプ役(大学と会員・会員間相互)」、「保護者交流の機会の提供(つながる。ひろげる。ちぢまる。）」、「保護者の視点からの大学支援、保護者支援」、「多様な学びの支援」、「大学に寄り添ったパートナー」、「大学ファミリーの一員」といったフレーズが頻出していることを確認した。
- 「会長挨拶」では、「就職支援」、「国家試験対応支援」が学生支援の重要事業として語られることも多い。

IV 貴会参加の背景（横列の項目ごとに一つご回答ください）

あなたご本人(回答者様)が貴会役員に就任した理由・背景の「度合い」を、可能な範囲でご教示ください。

全体の回答結果(130件)を下記の表に示す。

役割	非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったく思わない	未回答
大学教育への関心	28	69	18	1	1	13
お子様の教育への関心	30	63	16	2	4	15
大学からの依頼	43	42	17	7	9	12
教育後援会への関心	20	56	32	4	5	13
大学運営への関心	16	58	36	3	2	15
人的交流を豊かにするため	10	52	32	11	7	18
自己の経験を活かすため	5	40	47	9	11	18
知人の推薦・紹介	18	27	33	14	21	17
附属高校時代からの継続	3	9	24	14	58	22
余暇を活用するため	1	10	38	29	35	17

「肯定的回答比率」、「中間回答比率」、「否定的回答比率」でまとめるならば、回答結果は以下になる。

役割	肯定的回答率	中間回答率	否定的回答率
大学教育への関心	75%	14%	2%
お子様の教育への関心	72%	12%	5%
大学からの依頼	65%	13%	12%
教育後援会への関心	58%	25%	7%
大学運営への関心	57%	28%	4%
人的交流を豊かにするため	48%	25%	14%
自己の経験を活かすため	35%	36%	15%
知人の推薦・紹介	35%	25%	27%
附属高校時代からの継続	9%	18%	55%
余暇を活用するため	8%	29%	49%

➤ 教育後援会への参加背景は「大学教育への関心」

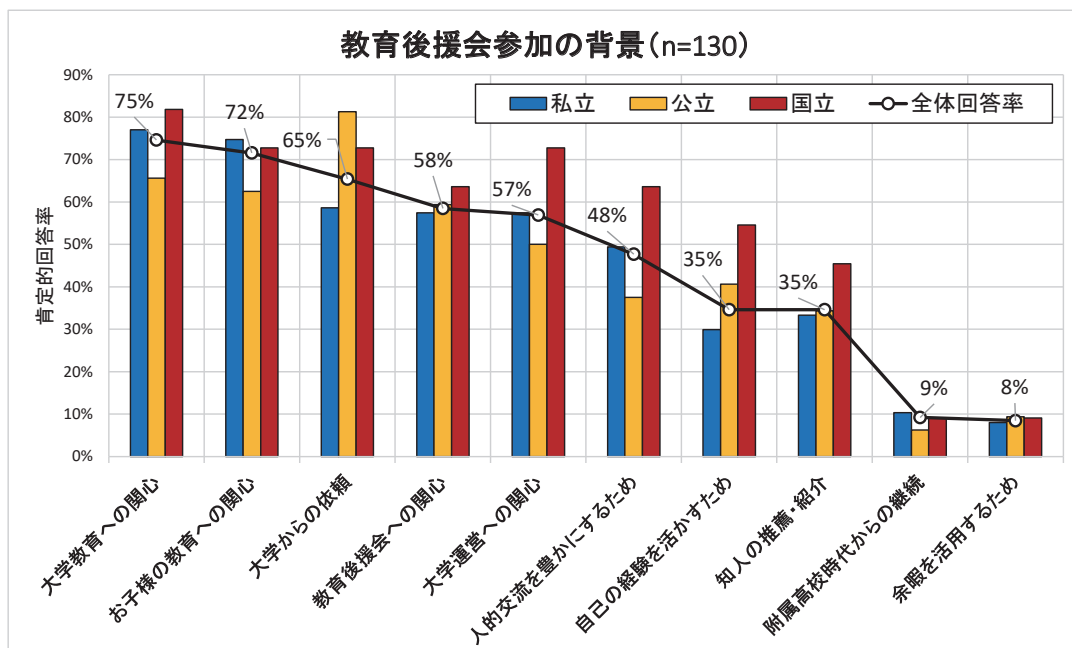
【ポイントまとめ】

- 教育後援会に参加した背景として、最も肯定的回答比率が高かったのは「大学教育への関心」であり、これに「お子様の教育への関心」が続き、いずれも7割を超す。
- 「大学からの依頼」の肯定的回答比率も6割を超す。
- 「教育後援会への関心」、「大学運営への関心」も約6割の肯定的回答比率であり、またこれらの否定的回答比率が極めて低いことは着目すべき点である。

【補足・自由記述より】

- ※ 事務局が大学内にあり、役員会に出席する必要があるため、役員は基本的に県内在住者で構成されています。(公立大学教育後援会)
- ※ 役員になったきっかけは大学からの依頼で、子どもがお世話になるし、少しでも大学のお役に立てればと思ったため。(公立大学教育後援会)

大学の「設置別」で、「教育後援会参加の背景」に関する肯定的回答比率を示したのが下記図である。



- 全体で最も高い回答比率である「大学教育への関心」について、私立大学・学園教育後援会の回答比率では77%、国立大学教育後援会では82%の回答比率となり、大学設置別においても最高回答比率の項目となっている。
- 公立大学教育後援会で最も高い回答比率項目は「大学からの依頼」である。この項目は、国立大学教育後援会でも73%と2番目に高い回答比率となっている。これに比べるならば、私立大学・学園教育後援会の回答比率59%は低く見える。
- 「お子様の教育への関心」の回答比率も高く、全体で2番目、私立大学・学園教育後援会の回答比率では75%、国立大学教育後援会の回答比率でも73%と2番目の回答比率となっている。
- 「大学運営への関心」の回答について、国立大学の回答比率は73%と目立って高い。私立大学・学園教育後援会の回答比率も57%と同率で4番目の高回答比率である。
- 国立大学教育後援会の回答項目として「大学運営への関心」(73%)、「人的交流を豊かにするため」(64%)、「自己の経験を活かすため」(55%)、「知人の推薦・紹介」(45%)等の回答比率の高さは、私立・公立の回答比率と比べて傾向が異なる。

【補足・自由記述より】

- ※ 教育後援会発足時に現職教員時代に学生部長をしていた経験から指名された。(公立大学教育後援会)
- ※ 大学事務局長退任後の就任。(公立大学教育後援会)
- ※ 自分自身が同窓生だから。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 最後なので機会があればと思います どうですかと言われ受けました。まさか会長になるとは思はず。でも楽しくやらせてもらってます。ただコロナでなんもやってませんが……。 (公立大学教育後援会)
- ※ 引き受けてみて、自分自身の経験としては、ありがたく思いました。(公立大学教育後援会)

V 大学に関する理解と今後の課題について

1. 役員としてのご活動の中で、参画する大学への理解が進んだ「度合い」を、可能な範囲でご教示ください。

役員活動の中で、後援する大学への理解が進んだ「度合い」について、全体の回答結果(130件)を下記の表に示す。

役割	非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったく思わない	未回答
大学の特色	37	70	11	0	0	12
大学の強み	36	67	16	0	0	11
大学教育の現状	35	66	17	1	0	11
学生の課外活動	35	61	22	0	1	11
学生の就職状況	42	55	19	3	0	11
学生の福利厚生	29	61	26	2	1	11
大学の課題	20	63	34	1	0	12
大学の社会貢献	19	56	40	4	0	11
大学運営の状況	17	46	52	2	1	12
大学財政の状況	13	40	55	7	3	12

「肯定的回答比率」、「中間回答比率」、「否定的回答比率」でまとめるならば、回答結果は以下になる。

役割	肯定的回答率	中間回答率	否定的回答率
大学の特色	82%	8%	0%
大学の強み	79%	12%	0%
大学教育の現状	78%	13%	1%
学生の課外活動	74%	17%	1%
学生の就職状況	75%	15%	2%
学生の福利厚生	69%	20%	2%
大学の課題	64%	26%	1%
大学の社会貢献	58%	31%	3%
大学運営の状況	48%	40%	2%
大学財政の状況	41%	42%	8%

➤ 役員活動を通じて理解が進む大学の特色・強み。

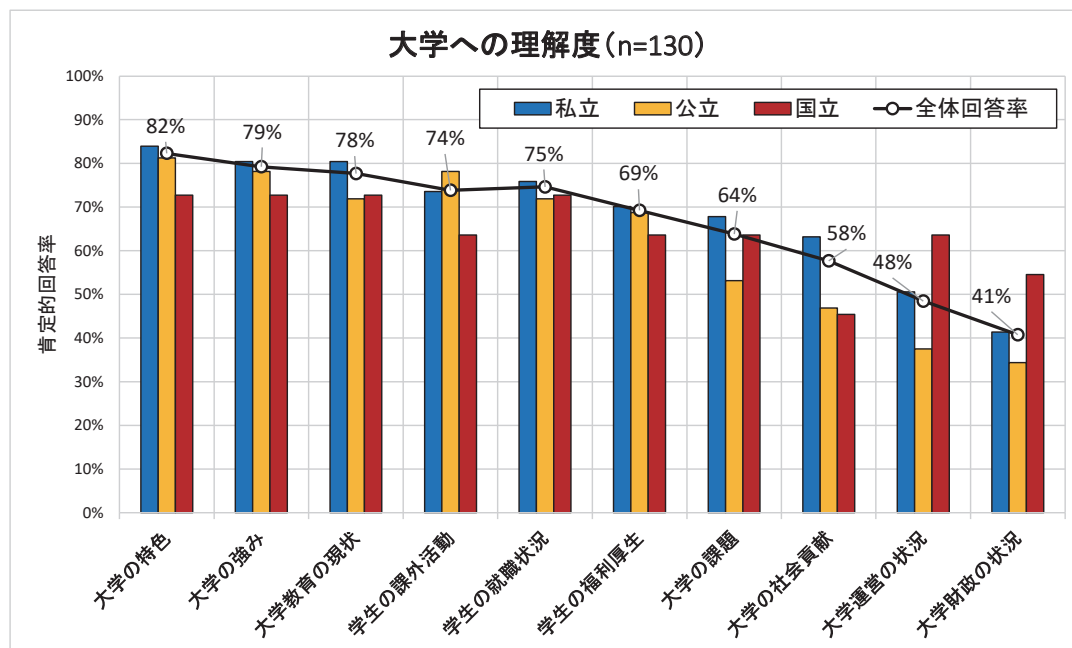
【ポイントまとめ】

- 「大学の特色」、「大学の強み」、「大学教育の現状」、「学生の課外活動」、「学生の就職状況」などの項目については、「理解が進んだ」と肯定的にとらえる回答が7割を超える。
- 設問に提示した役割項目に関する「理解度」について、全体を通じてこれを否定的に回答する比率は低い。
- 「大学運営の状況」、「大学財政の状況」の理解に関する肯定的回答比率が5割以下であるものの、否定的回答比率も2%と8%ときわめて低い。

☆ topics

- 「大学理解への促進機能を果たす教育後援会」（私立大学・学園教育後援会会報の「会長挨拶」より引用）
教育後援会は次の3つの柱を中心に活動を続けております。その一つとして、会員に対して大学の情報を正確に提供し、大学をよく理解して頂くことと、会員相互の連絡協調に関することです。そのため教育懇談会を新入生の保護者を対象に入学式直後に行っています。（後略）

大学の「設置別」で、「大学への理解度」に関する肯定的回答比率を示したのが下記図である。



- 私立大学・学園教育後援会の回答比率では「大学の特色」、「大学の強み」、「大学教育の現状」の理解度についての肯定的回答比率が8割を超える。後援会役員会が大学アドバイザーリーボードを果たす可能性も見いだせる。
- 公立大学教育後援会の回答比率では、「大学の特色」の理解度についての肯定的回答比率が8割を超えている。「学生の課外活動」(78%)の理解度は、全体平均回答比率よりも高い。
- 国立大学教育後援会の肯定的回答比率では、全体回答比率に比べて総じて低い。ただし、グラフには無いが、否定的回答比率については全項目とも0%である。
- 国立大学教育後援会では、全体回答の肯定的回答比率の高さで下位に位置する「大学運営の状況」(64%)及び「大学財政の状況」(55%)の項目について、それぞれ全体平均を上回る肯定的回答比率を示している。

【補足・自由記述より】

- ※ 地域の様々な場所で学生の作品、活動を見ることができること。できるだけ活動費を支援していきたい。(私立芸術系大学・学園教育後援会)
- ※ 役員会への出席、主催事業等への参加によって大学の教育の意義への理解、また、他大学との対比によって大学教育全体への理解が深まると考えております。(公立大学教育後援会)

◇ topics

○ 「大学理解を踏まえた教育後援」(国立大学教員養成系学部後援会会報の「会長挨拶」より引用)

私ども保護者としては、わが子が大学で単位を取得し、間違いなく学んでいるかが気にかかり、就職や進学に対しても不安なものです。この点、後援会評議員会・総会におきまして、学部長先生はじめ教務委員長・就職委員長の先生方が、説明と情報提供をさせていただき状況を把握することができました。大学が教育機関として、様々な取り組みを行なっていることを知り、大きな期待を寄せた次第です。保護者・後援会としても大学の方針を理解し、これまでも増して大学との連携を大切にしながら、全面的に支援していく覚悟です。また、学部再編という大きな変化の中で、今後も後援会として、学生一人ひとりが有意義な大学生活を送り、将来への夢を実現できるよう、一層の支援を図ってまいります。どうか皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2. 貴会の活動において、役員としての「ご苦勞(苦慮している点。困難な課題)」の「度合い」を可能な範囲でご教示ください。

役員としての「苦勞(苦慮している点。困難な課題)」について、全体の回答結果(130件)を下記の表に示す。

役割	非常にそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったく思わない	未回答
役員募集の難しさ	41	57	21	4	1	6
財源活用の難しさ	16	52	30	19	5	8
事業企画の難しさ	6	55	33	23	5	8
説明責任の難しさ	10	48	39	19	6	8
保護者の無関心	6	35	50	26	5	8
大学募金事業協力の難しさ	1	30	71	15	4	9
大学との連携の難しさ	2	28	44	35	13	8
同窓会との関係の難しさ	3	17	59	28	14	9

「肯定的回答比率」、「中間回答比率」、「否定的回答比率」でまとめるならば、回答結果は以下になる。

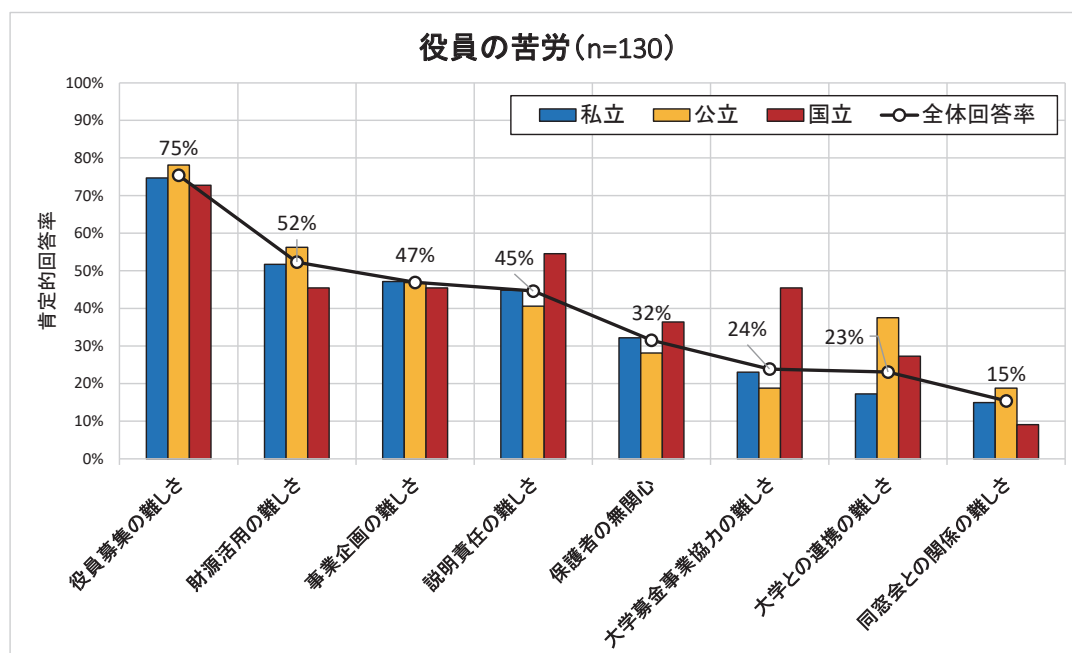
役割	肯定的回答率	中間回答率	否定的回答率
役員募集の難しさ	75%	16%	4%
財源活用の難しさ	52%	23%	18%
事業企画の難しさ	47%	25%	22%
説明責任の難しさ	45%	30%	19%
保護者の無関心	32%	38%	24%
大学募金事業協力の難しさ	24%	55%	15%
大学との連携の難しさ	23%	34%	37%
同窓会との関係の難しさ	15%	45%	32%

➤ 最も苦勞することは「役員募集」。大学とは総じて良好な連携・協力関係。

【ポイントまとめ】

- 教育後援会運営にあたっての「苦勞」については「役員募集の難しさ」をあげる回答比率が7割を超す。「役員募集の難しさ」を否定する回答は極端に少ない。後援会組織の多くが苦勞している事項と言える。
- 「財源活用の難しさ」、「事業企画の難しさ」、「説明責任の難しさ」を回答するのは5割前後の比率であり、回答項目の上位を占める。その一方で、これらについての苦勞を否定する(苦勞していない)回答の比率も2割前後ある。
- 「大学との連携の難しさ」を回答する比率は2割あるが、否定的回答はそれを上回る4割弱である。総じて教育後援会は大学と、良好な連携・協力にあると考えられる。
- 「同窓会との関係の難しさ」を肯定する回答比率は最も低い(15%)。また「同窓会との関係の難しさ」を否定する回答(苦勞していない)も3割以上である。教育後援会は同窓会とも良好な関係にあるのか、あるいは同窓会とは事業上の関係(接点)が希薄なのかも知れない(接点がない)。
- 教育後援会組織やその活動が学内で認識されていないとする現状課題もあるようだ。そのために「支援が平等に行き渡らず、できるだけ公平な支援を実施することを課題としている」と補足したも回答もあった。
- 会員の所在地が広域(日本全国)にわたるため、会員間の交流連携が課題と報告した教育後援会もあった。

大学の「設置別」で、「役員としての苦勞」に関する肯定的回答比率を示したのが下記図である。



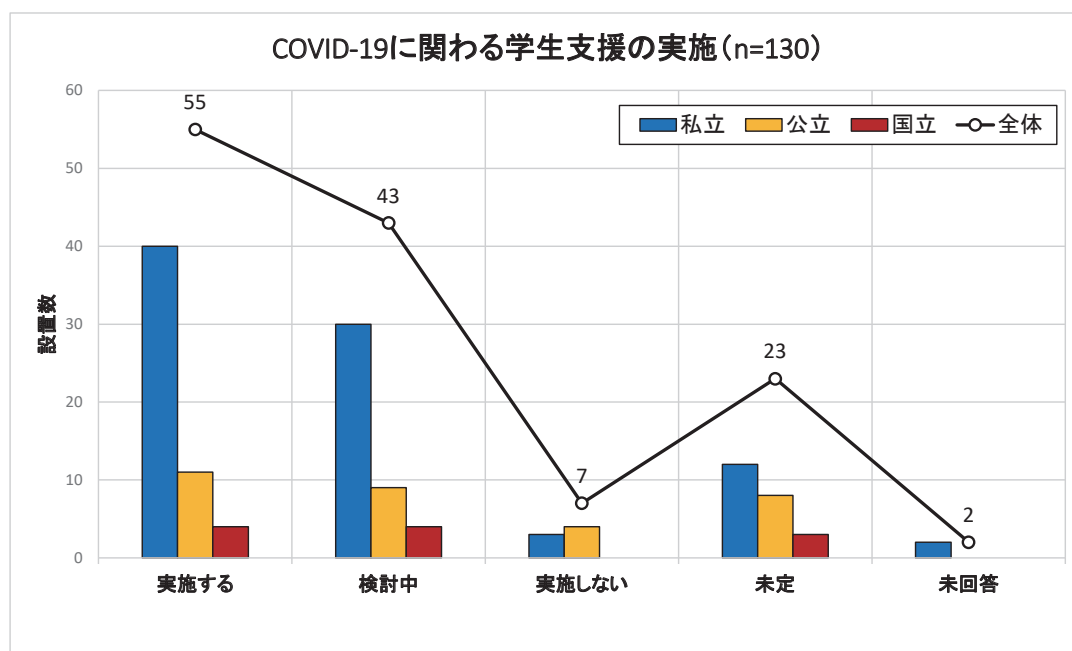
- 大学設置別で教育後援会のそれぞれ回答比率をみても、全体の回答比率と数値は近い。教育後援会の役員として「苦勞」している事項は「大学の設置(国・公・私立)」にかかわらず共通といえる。
- 国立大学教育後援会では「説明責任の難しさ」(55%)、「大学募金事業協力の難しさ」(45%)、「保護者の無関心」(36%)、「大学との連携の難しさ」(27%)が全体平均を上回る。また国立大学教育後援会が回答した「大学募金事業協力の難しさ」の比率は全体平均よりもかなり高い。国立大学教育後援会は大学から募金事業協力を強く求められているわけでは無いが(12、14ページ参照)、教育後援会にとって「募金事業協力」は負担感のある業務となっているのか。
- 国立大学教育後援会では「同窓会との関係の難しさ」を回答する比率が低い。むしろ、同窓会と教育後援会との関わりが希薄なのかもしれない。
- 公立大学教育後援会では「大学との連携の難しさ」(38%)が、全体平均と比べて目立っている。

【補足・自由記述より】

- ※ 幼・中・高・短・大(の保護者)で成り立っているため、ある程度の情報共有ができています。支出に関しては、全体を見てのことなので各学校・幼での購入は学園を通すため、少しの時間を要することが少々難ありなところです。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 大学が役員活動を支援しているので、苦慮することは特にありません。PTA 活動とは異なり、保護者の負担が少なく、円滑な会運営ができています。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 次期役員選出。大学から事前に合格者のお知らせが来なくなったので 水面下でいろいろ探って決めなければならない事。(公立大学教育後援会)
- ※ 完全な任意参加のため、年度によって役員数の増減が大きいなどの課題はありますが、役員自体は、熱心に協力くださいます。(公立大学教育後援会)
- ※ 大学との二重行政にならないようにしないといけない点(学生支援のすみわけ)が難しい。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 活動において保護者も大学も非常に協力的ですが、役員募集について、実際は後援会事務局が行っており、後援会事務局が苦慮しています。(公立大学教育後援会)
- ※ 後援会活動に協力的な保護者が多いと感じる。(私立大学・学園教育後援会)

VI 【緊急追加設問】 新型コロナ・ウイルス感染症拡大に関する対応について

新型コロナ・ウイルス感染症拡大の状況にあつて、貴会は、学生または大学への支援を実施しますか。



➤ 2020年5月現在で多くの組織が実施（検討）の方向で動く。「支援を実施しない」とするところは少数。

➤ 調査が5月と言うこともあり、「役員会等の開催もままならず、いまだ未定」とする回答も。

【補足・自由記述より】

- ※ 会合自体ができないため、長期間進捗なし。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 学生の経済支援および遠隔授業に必要なインターネット環境に関する支援を行った。(公立大学教育後援会)
- ※ 校友会基金を設け、学生の教育環境の整備(遠隔講義実施、授業再開後の学生支援等)に用途を定めて大学に2500万円(在学生1人当たり1万円相当)の寄付を行った。(公立大学教育後援会)
- ※ 奨学金として2600万円を支出しました。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 14,000人の下宿生に対し、体温計を配布した。(在校生:3月下旬、新入生4月上旬)。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 保護者会の役員会も開催できていません。大学からの支援案があれば実施します。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 単なる寄付・募金ではなく、今後に繋がる目的を持った活動に協力していきたいと思ひます。(私立大学・学園教育後援会)
- ※ 大学の学生支援基金設立に伴い、寄付を行う。(公立大学教育後援会)
- ※ 役員会の開催がなかなか出来ない状況に於かれています、学生への支援を何らかの形で実施したいと思ひています。(公立大学教育後援会)
- ※ 寄付をする予定です。(私立大学・学園教育後援会)

自由記述

大学の発展や学生の成長に向けて貴会が積極的に取り組んでいること、貴会ならではの特色ある取組など、ご随意に記載下さい。組織運営や事業実施上での課題でも結構です。事業項目の提示だけでも構いません。

自由記述の掲載につきましては、アンケート調査時に「事業等取り組みのご紹介」にご承諾いただいた後援会組織さまのみを匿名で記載しております。

【課外活動支援等】

- 学生の課外活動・学生の福利厚生。(公立大学教育後援会)
- 各種体育大会の参加援助。(国立大学教育後援会)

【会員相互の交流、親睦、コミュニケーション】

- 入学式後家族会入会式、学年総会実施。家族会役員会の実施(年 2 回、学内・学外で実施)。家族会報発行(年3回)。(私立大学・学園教育後援会)
- 保護者と教員との交流を深める事業の実施(個別面談・懇親会等)。(私立大学・学園教育後援会)
- 毎年、6 月から 7 月にかけて、全国 47 都道府県にて父母懇談会を開催し、大学の近況や就職事情等について講演をするほか、個人相談ができるイベントを開催し、会員(ご父母)・・学员(卒業生)、大学教職員の交流を深めています。(私立大学・学園教育後援会)
- 理事長、学長などが、後援会会員(保護者)と直接話し合う場を設けてくれる。大学をより良くしていこうという雰囲気が感じられる。(私立大学・学園教育後援会)
- 大学と父母・保護者と父母・保護者間のコミュニケーションをとることに工夫。(私立大学・学園教育後援会)
- 学生の研究、福利厚生への支援。会員の互助親睦。学生会に対する援助。(私立大学・学園教育後援会)
- 後援会の職員と委員さんが、適度なコミュニケーションを取り、保護者の方との意見交換できる場を大切にしています。(私立大学・学園教育後援会)
- 大学の発展と教育内容の充実に協力することが最も大切なことであり、保護者の理解を高め、協力を得るため、地区別懇談会等の主催事業を通じて保護者と大学の意見交換の場を設けることを最優先としながら、随時役員を募集していきます。(公立大学教育後援会)

【懇談会、保護者会の開催】

- 大学側に協力を頂き全国各地で教員と親との面談会を長年開催している 90%以上の学生が下宿生活のため不安を持つ親も多く解消に役だててもらおうよう開催している。後援会だより(広報誌)の発行し就職、クラブ活動等会員に発信している。(私立大学・学園教育後援会)
- 36 支部の活動として「新入生父母の集い」や「支部総会・父母懇談会」において大学の教職員が出向き説明会・相談会を開催しています。(私立大学・学園教育後援会)
- 保護者と大学の架け橋となることに特に取り組んでいる。(公立大学教育後援会)
- 以下の行事を行っている。新入生保護者懇談会、保護者就職説明会、保護者交流企画(年4回)。同窓会との連携(月1回 全学同窓会と協議会を開き情報交換をおこなっている)。(私立大学・学園教育後援会)
- 同窓会の方とは連携がありません。コロナなのでただ今後も続けて欲しいのが教職員父母懇談会です。今年はできませんでしたが高校までの3者懇談みたいなもので とてもありがたいものです。(公立大学教育後援会)
- 全国 11 支部で支部総会、保護者会を実施している。(私立大学・学園教育後援会)

- 九州各県(沖縄は除く)、山口県及び広島県における在籍学生の保護者に対する説明会(就職状況、採用試験への大学等の取組、大学生生活への質問に対する回答、後援会の活動報告等)。ただし、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。(国立大学教育後援会)

【資格試験支援】

- 検定料の補助やクラブ活動への支援。(公立大学教育後援会)
- 薬剤師国家試験受験対策(予備校講習会等の支援)・同窓会との連携(学生の福利厚生活動の協賛(共催))。(私立大学・学園教育後援会)
- 国家試験対策支援、奨学金給付事業に積極的に取り組んでいる。課題としては、役員のなり手がいないこと。(私立大学・学園教育後援会)

【奨学支援】

- 毎年、大学の学生支援に約4500万円補助している。その中で1500万円は後援会奨学金として授業料半額を50名の学生に支給している。その他、大学の周年事業に多額を支出している。(私立大学・学園教育後援会)
- 独自の奨学金制度を有し、(授業、学校教育に関わらず)特色ある活動を行っている学生を応援する体制をとっています。(私立大学・学園教育後援会)
- 学生の安心・豊かな教育環境の向上を目標に、具体的施策を実施しており、特に退学者対策としての独自の効果的な奨学金を目指し、試行錯誤しながら複数を展開中。(私立大学・学園教育後援会)

【食育支援はじめ生活支援】

- 100円朝食(2015年度 厚生労働省スマートライフプロジェクト厚生労働大臣賞受賞)。医療費補助。家計急変奨学金(親が死亡した場合、卒業までの授業料を支給。2015年度以降172名の学生に給付し、退学者なし)。卒業見守り共済事業(2018年度から実施。父母教育後援会が事業主となり、月800円の掛け金で、親が死亡した場合、毎月8万円を給付。※約1,200名が加入、支給実績はまだない)。(私立大学・学園教育後援会)
- 食の向上をテーマに数年間取り組みましたが、学食支援の方法に限界を感じ、お弁当の学生用に講義棟の空きスペース等の随所にソファ・テーブル等を寄付の予定。(私立大学・学園教育後援会)
- 学生生活をよりよくするために「安心安全」をこころがけ、スマホも利用して学生と学生担当者と連絡できること。学生の健康のため、学食のチケット補助や、数量限定とはいえ朝食の安価提供などをしております。(公立大学教育後援会)

【留学・海外研修支援】

- 学生の海外留学助成。(公立大学教育後援会)
- 大学は横浜から世界へはばたく人材育成を基本方針にしていることから、本会も予算の1/3を海外研修支援に充てている。(公立大学教育後援会)
- 外国人留学生への支援。在学する正規生の全学生の加入保険料全額を会で助成しています。(過年度学生分含む)。(国立大学教育後援会)

【学生支援、学修・実習支援】

- 3300万円の予算のうち学生支援事業に約66%を当てて、課外活動、学園生活、学生イベント、就職活動などへの支援を行っている。特に大学が直接経済的に支援しづらいところを重点的に対応するよう心がけている。(公立大学教育後援会)
- 学生が気持ちよく大学生生活を送れるような様々な支援をすることを心がけている。(公立大学教育後援会)

- より広く、より公平に学生に還元できる会活動を目指している。(私立大学・学園教育後援会)
- 入会者への修学面での支援の強化。(公立大学教育後援会)
- 教育懇談会(保護者会)の開催費用援助。(国立大学教育後援会)
- 就職支援としての面接研修の実施など。(国立大学教育後援会)

【同窓会・交流会との連携】

- 開学して 20 年、同窓会組織が未成熟の状態のなか続いてきた後援会組織だが、今後は同窓会との連携も密にして取り組んでいかなければならないと感じている。(公立大学教育後援会)

【就職活動支援、就職情報共有】

- 就職活動支援(学内で学びと成長支援講座開講、企業情報収集)。(私立大学・学園教育後援会)
- 卒業者(企業)との連携を図り特に学生地元企業への就職先紹介などネットワークの構築。(私立大学・学園教育後援会)
- 学内及び地方会場における保護者会に協力し、保護者目線の相談事や疑問に答える活動を行っています。特に学生の就職活動は、学校側の説明と合わせて学生と保護者との直接的な情報交換を心がけています。(私立大学・学園教育後援会)

【情報発信・広報】

- 入試・入学者状況、就職・進学状況、海外協定締結大学との学術交流実績、大学の主な取組等、保護者の興味のあるような情報を会報や保護者会などで発信することで、保護者の大学や同窓会への理解を深めるよう努めている。(国立大学教育後援会)
- 学院の広報誌の作成。(私立大学・学園教育後援会)
- 入学式後家族会入会式、学年総会実施。家族会役員会の実施。(年 2 回、学内・学外で実施)。家族会報発行(年3回)。(私立大学・学園教育後援会)

【施設設備の充実支援】

- 数年前から、後援会の会員の皆様にアンケート調査を行っています。アンケートをもとに役員会で協議を重ね、学生への学修環境の改善(大学の設備等)を地道に行っています。サークルなどへの補助金も役員会で取り決めたりしました。サークル活動の充実により、地域との交流もより積極的になりました。(公立大学教育後援会)
- キャンパス内での学生の居場所の整備。(私立大学・学園教育後援会)

【志願者獲得。愛校心涵養・人材育成】

- 遠方保護者との連携を通じ大学への理解を深める機会をもち、それを志願者獲得へ繋げたい。(私立大学・学園教育後援会)
- 現役学生に活躍をしている企業、卒業者紹介等を通じ大学へ愛着と誇りを持ち社会貢献出来る人づくり。(私立大学・学園教育後援会)

【課題】

- 差別化できる特色ではないが、外国人留学生への支援、大学近接地域への就職率向上、同窓会との連携強化等に特に取り組んでいる。これらの取り組みを測定する KPI 的指標の整理が、説明責任を果たし役員以外の活動参画を促進していく上でも必要だと感じている。(公立大学教育後援会)。
- 地方支部活動の活性化。役員募集の仕方について。(私立大学・学園教育後援会)

○回答にご協力いただいた教育後援会・保護者会さま (回答到着順)

郡山開成学園家族会、新潟工科大学後援会、成安造形大学教育後援会、東京情報大学後援会、和歌山大学後援会、北見工業大学学生後援会、富士大学後援会、中央大学父母連絡会、茨城県立医療大学後援会、健康科学大学健康科学部後援会、尚絅学院後援会、横浜薬科大学後援会、宮城県立看護大学後援会、山梨県立大学後援会、大阪教育大学教育振興会、駒澤大学教育後援会、兵庫教育大学後援会、三重県立看護大学後援会、静岡理工科大学後援会、愛知東邦大学後援会、秋田県立大学後援会、星薬科大学揺籃会、前橋工科大学後援会、学校法人日本医療大学後援会、広島国際学院大学自動車短期大学部同窓会保護者会、大阪市立大学教育後援会、福井工業大学後援会、中部学院大学・中部学院大学短期大学部後援会、福岡教育大学後援会、関西学院後援会、名古屋造形大学桃美会、桐蔭横浜大学育友会、大阪産業大学後援会、高知工科大学校友会、四條畷学園大学・短期大学保護者会、奈良女子大学育友会、福島学院大学家族会、宮城大学後援会、沖縄国際大学後援会、愛知県立大学後援会、大阪府立大学後援会、四国大学父母会、福山大学後援会、中京大学教育後援会、獨協大学父母の会、長野大学後援会、立命館大学父母教育後援会、国士舘大学教育後援会事務局、国際武道大学後援会、岩手保健医療大学後援会、拓殖大学後援会、神戸親和女子大学父母の会、新見公立大学後援会、青森県立保健大学後援会、天使大学後援会、四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部後援会、兵庫県立大学神商会後援会、日本福祉大学後援会、名桜大学後援会、国際教養大学保護者の会、長岡大学後援会、長岡造形大学保護者会「大地」、筑紫女学園大学後援会、東京都市大学後援会、八戸工業大学保護者後援会、神戸市外国語大学伸興会、昭和大学父兄会、徳山大学後援会、一般社団法人北九州市立大学後援会、岩手大学農学部後援会、日本文理大学後援会、志學館大学後援会、大阪経済大学後援会、立正大学橘会、愛知学院大学後援会、敬和学園大学後援会、岡山県立大学後援会、仙台白百合女子大学後援会、園田学園女子大学育友会、鹿児島純心女子大学後援会、秋田公立美術大学後援会、銀杏学園後援会(熊本保健科学大学)、北陸大学松雲友の会、佛教大学教育後援会、龍谷大学親和会、流通科学大学後援会、駒澤学園父母の会、相模女子大学・相模女子大学短期大学部後援会、下関市立大学後援会、聖学院大学後援会、一般社団法人高崎経済大学後援会、宮崎公立大学後援会、長崎県立大学佐世保校後援会、大東文化大学青桐会、天理大学後援会、京都工芸繊維大学学生後援会、宮城教育大学学生後援会、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学教育振興会、浜松医科大学後援会、青森公立大学後援会、関西福祉科学大学教育後援会、工学院大学後援会、東北学院大学後援会、昭和女子大学サポーターズ・クラブ、明海大学浦安キャンパス教育後援会、広島市立大学後援会、四国学院大学父母の会、東海大学連合後援会、同朋大学共育後援会、長野県看護大学後援会、東京経済大学父母の会、相山女学園大学振興会、芝浦工業大学後援会、横浜市立大学後援会、

日本獣医生命科学大学後援会、法政大学後援会、聖徳大学後援会、北海道教育大学札幌校教育後援会、
桜美林大学後援会、甲南女子大学教育後援会、新潟薬科大学後援会、成城学園父母の会、
中国学園大学・中国短期大学後援会、中部大学後援会、公立大学法人埼玉県立大学後援会、
東京工芸大学後援会、大阪体育大学教育後援会、山口県立大学教育後援会、明星大学育星会

(以上 130 組織さま)

○ 研究メンバー

大川 一毅 研究代表者（研究総括、調査総括、報告執筆）

（岩手大学 評価室 教授）

大野 賢一 研究分担者（アンケート設計、収集情報分析）

（鳥取大学 学長室 教授）

髙田 敏行 研究分担者（アンケート調査表ウェブ設計、収集情報分析）

（茨城大学 全学教育機構・准教授）

2020年5月実施

「大学教育後援会」活動調査アンケート集計報告

日本学術振興会「科研費 19K02855」：基盤研究（C）

「大学教育後援会の事業と成果を指標として実施する

大学評価の可能性をめぐる実証的研究」

（2020年11月発行）

発行代表、及びご連絡・お問い合わせ

研究代表者 大川 一毅

〒020-8550 盛岡市上田3-18-8 岩手大学 評価室

電話 019-621-6018 kazuki55@iwate-u.ac.jp

